



CONTENTS

01 理念・ご挨拶

02 みやぎ生協とは、コープ東北とは

04 〈東日本大震災〉

協同の力で 希望の明日へ

震災復興と社会貢献



第1章 食品の安全・安心の取り組み

16 食品の安全を確保する仕組みをより確かなものへ

18 顔とくらしの見える産直「めぐみ野」



第2章 メンバー(組合員)&社会貢献活動

22 自主的でいきいきとしたメンバー活動を
進めています

23 食の活動と子育て支援

24 くらしと豊かな地域づくり

25 平和とくらしの見直し活動

26 地域社会への貢献

27 国際協力の取り組み



第3章 事業活動

くらしに役立つ事業活動のために

28 コンプライアンスの徹底・店舗

30 共同購入

31 くらしのサービス

32 こーぶ福祉会

33 学校教材販売事業



第4章 環境活動

かけがえのない自然・環境を未来に残していく
取り組みを進めています

34 理念・方針

35 低炭素社会の構築に向けて

36 リサイクルセンターの取り組み

37 メンバーの環境活動

38 商品事業における環境配慮

39 外部環境監査、内部環境監査

40 生協活動と環境のかかわり



協同組合の定義・価値

1995年9月に開催された国際協同組合同盟(ICA)100周年記念大会で採択した21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す協同組合原則。

◎定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

◎価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。



【みやぎ生協のめざすもの】

わたしたちは、協同の力で、 人間らしくらしを創造し、 平和で持続可能な社会を実現します。

2011年3月11日に発災した東日本大震災より4年が経過しました。

この間ご支援を頂いた全ての皆様及び、復興に携わる皆様に深く感謝を申し上げます。

みやぎ生協では、県内4ヶ所に設置したボランティアセンターを中心に、仮設住宅集会所やみやぎ生協施設を活用し様々な復興支援を行いました。震災後の宮城県の食産業復興を応援する「食のみやぎ復興ネットワーク」には236団体が参加し、被災地产品を使った商品開発・普及に取り組んでいます。震災から時間が経過し、全国で風化が進んでいますが、これを防ぐための取り組みを強め、被災地の実情を見つめた支援を継続していきます。

2014年度、みやぎ生協のメンバー（組合員）数は約70万人となり、県内世帯比率は72%となりました。今まで店舗が無かった地域に5年ぶりとなる新店を2店舗開店し、メンバーの要望に応えました。産直「めぐみ野」は利用が広がり、震災前の供給高を上回ることができました。

また、貧困が拡大する中で、生活相談・家計再生支援貸付事業やコープフードバンクの拡大、高齢者見守り活動など、社会のセーフティーネットへの貢献を継続して行っています。

みやぎ生協は、設立の礎となった創設者たちの伝統を受け継ぎ、協同組合の理念のもとに、地域の復興へ尽力し、地域社会からの信頼にこたえられるよう、役職員一人ひとりが社会・事業・環境活動を推進してまいります。

最後に、この「2015年度 CSR報告書」は、2014年度に生協が取り組んだ、社会的責任を負うべき課題や、東日本大震災の復興支援に関する取り組みについてまとめています。是非ご一読頂き、皆様のみやぎ生協への更なるご支援、ご指導をお願い申し上げます。

みやぎ生活協同組合 理事長

宮本 弘



みやぎ生協とは、コープ東北とは

みやぎ生協

生活協同組合とは

協同組合は、メンバー（組合員）の共通の願いやニーズを満たすためのメンバー同士の助け合い（相互扶助）の組織です。19世紀の半ば、イギリスの労働者が自分たちの暮らしを守るために作った「ロッチャードル公正先駆者組合」が協同組合の始まり。現在、日本では2,010万人を超える方が地域生協の組合員です。

民主的な運営

メンバーの中から選出された総代による「総代会」で、毎年の方針などが決定されます。日常的には総代会で選出された理事（会）や、その負託を受けた常勤理事会が、総代会の決定に基づき事業を執行します。また、監事が理事の業務執行を監査するなど、生協の民主的な運営を確かなものにするために多様な仕組みを設けています。

1982年に創立

1982年、宮城県学校生協（1952年設立）と宮城県民生協（1970年設立）が合併して現在のみやぎ生協が誕生しました。当時は大型生協同士の合併ということで全国的にも注目されました。



みやぎ生協誕生の様子

供給高（売上高）
1,025億97百万円
前年比100.4%／店舗714億円、共同購入293億円、サービス17億円

出資金（資本金）
246億15百万円

職員数
6,857人

レギュラー職員896人、エリア職員255人、嘱託職員382人、パートナー職員4,033人、アルバイト職員1,291人
※関連団体への出向者含む

コープ東北

東北6県の生協との連帯 コープ東北サンネット事業連合

事業活動と取り組み

コープ東北は、東北の生協が商品仕入れを統一化、共同で行うことにより、厳しい競争環境の中でも、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在、店舗事業、共同購入事業、食品の安全、物流・システムの分野で統一・共同が進んでいます。



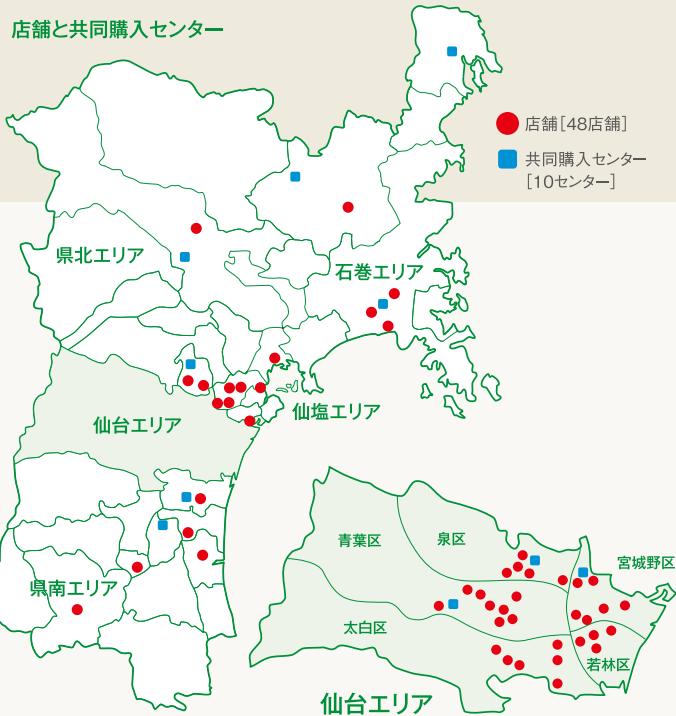
1995年2月23日の創立総会の様子



コープ東北20周年
生協共立社60周年・いわて生協25周年

設立から今日まで

1990年6月、いわて生協・生協共立社・みやぎ生協が、今後の事業連帯のあり方について話し合いを開始し、1995年5月、コープ東北サンネット事業連合を設立しました。その後、複数の生協が加盟し、会員数は6県10生協に広がりました。東北6県の生協が連帯することにより、各会員生協の収益改善に大きく貢献しています。



2014年度決算概要

2014年度の供給高は、わずかに予算には届きませんでしたが、前年を上回りました。当期剰余金は862百万円となり、予算、前年実績、共に達成しました。

この結果、昨年に引き続き内部留保を実現し、出資配当も行います。

加入率は全国一

みやぎ生協に加入しているメンバーカー数は70万世帯、宮城県内世帯数の72.1%で、全国で最も高い加入率を維持しています。

メンバー(組合員)数
69万3,589人

はん数
4万3,387はん

はんメンバー数

13万6,605人

(2015年3月20日現在)

主な事業

生鮮食品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業、サービス事業、受託共済事業、生活相談・家計再生支援貸付事業

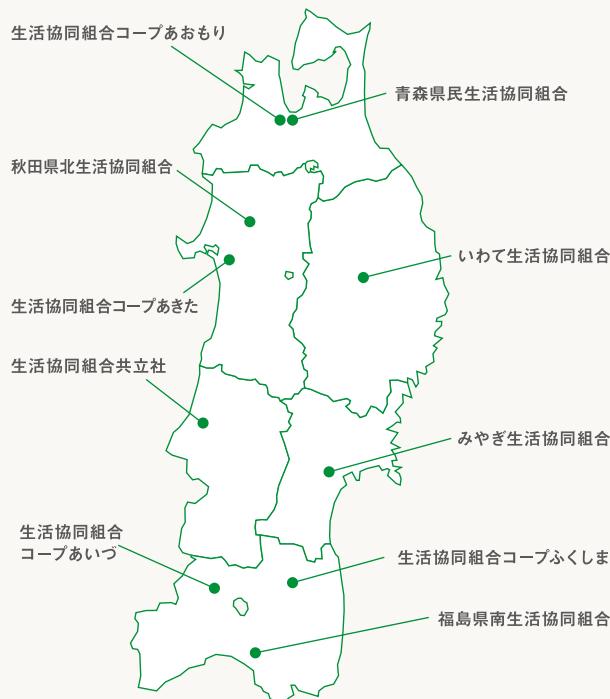
| 店舗48店舗 共同購入10センター | 生産部 ミートセンター、フィッシュセンター、豆腐揚げ工場 | **サービス・保障事業** サービスセンター、ガスセンター、住まいのセンター、ブリケ案内センター、共済センター

| 子会社 株宮城県学校用品協会、株コープトラベル東北、株コープ総合サービス、株コープエステート、株スクランムファイブ、(株)コープ松島

主な加盟団体

日本生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会、

生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合



2014年度決算概要

2014年度の加盟生協合計供給高は2,334億円、合計組合員数は169万人となっています。また、コープ東北が取り扱う商品の供給高は997億円(前年比106.4%)になりました。



◆コープ東北のHPはこちら <http://www.tohoku.coop/>

〈東日本大震災〉 協同の力で 希望の明日へ

震災復興と 社会貢献



1.卸町

被災された方々を支えて—— ボランティアセンター

被災された方々の暮らしを応援するため、2011年5月から県内4ヶ所(県北、石巻、仙南、仙塩)にボランティアセンターを設置しました。全国の生協や、社会福祉協議会、医療機関、NPO、お取引先様企業など多くの団体と連携しながら、コミュニティづくり支援のボランティア活動を継続しています。

【ふれあい喫茶】

仮設住宅集会所や店舗、メンバー(組合員)集会室など県内57ヶ所(2015年3月現在)で、月に1~4回程度、一緒にお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ「ふれあい喫茶」活動に取り組みました。参加される方々のリクエストに応え、小物づくりや、歌、軽体操、簡単な調理、医療機関と連携した健康チェックなども行いました。

【募金活動・手作り商品販売の取り組みなど】

募金活動や仮設住宅の方々の手作り品販売などに定期(毎月)・不定期(おまつりなど)で取り組んだほか、「3・11を忘れない取り組み」として、手作り商品の販売や防災グッズの展示などの取り組みが全ての地域で行われました。

被災された方々の声をうかがいました

暮らしの再生・再建のため
に困っていることを伺う生活
再建懇談会を5会場で開催
し、52人が参加しました。仮
設住宅の入居者減少による防犯問題や移転先の環境
整備などで、これまでと違った声が出されました。



石巻渡波店メンバー集会室での開催の様子

【子育てひろば】

震災により遊び場が少なくなった子どもたちのために、遊び場を提供する活動に取り組みました。ふれあい喫茶との同時開催により、世代を超えた交流の場にもなっています。



子育てひろば

【サポーターへの支援】

ボランティア活動のサポーターを増やすため、ふれあい喫茶を体験する「オープンふれあい喫茶」を13回開催して21人が参加したほか、「聴き方の学習会」を開催し17人が参加しました。また、活動しているボランティアセンターサポーターの交流会を計8回303人の参加で開催して、活動中の対応などを一緒に考えながら学び、交流と心のケアの時間になりました。



2



3

5丁目仮設住宅(仙台市若林区)でのふれあい喫茶の様子 2.「3・11を忘れない取り組み」として、災害への備えを呼びかけるポスターを作成、掲示。(柏木店) 3.ボランティア活動をふりかえり今後の支援を考える会を開催。

【被災地訪問企画】

被災地域の変化や復旧状況を自身の目で確かめ、今後の支援や防災について考える被災地訪問企画を17回実施し577人が参加しました。地域による被災や復旧状況の違いを目の当たりにし、改めて支援を考える機会となりました。また、こ～ぶ委員会などで現地の様子を報告し、支援継続を呼びかけました。



亘理町の新しい防潮堤の上で伺う、震災語り部の会「ワッタリ」のお話。

【被災地支援落語公演】

2011年8月から実施している落語公演。今年も1月に石巻・気仙沼の計4ヶ所で開催しました。落語で初笑いの後は桂歌助さんを囲んだお茶会を開き、写真を撮ったりサインをいただきたり、リラックスした様子で楽しんでいました。いつものお茶会ではあまり見られない男性や親子連れなど幅広い方々に楽しんでいただきました。



桂歌助さんの「かっぽれ」披露

【行政書士無料相談会】

蛇田店や桜ヶ丘店の定期開催のほか、メンバー集会室や仮設住宅でのふれあい喫茶会場で、宮城県行政書士会と連携した行政書士無料相談会を開催しました。気軽に相談できる場として好評でのべ95人が相談に訪れました。

【ボランティア活動ふりかえりの会】

これまでの活動をふりかえり今後の支援を考える機会として、活動記録誌を作成し、「みんながんばりました。そしてこれからも～東日本大震災 みやぎ生協ボランティア活動のふりかえりとこれから～」の会を249人の参加で開催しました。

【手作り商品カタログの作成】

生きがいやコミュニティづくり、生活再建のため、手作り品の製作に取り組む方々を紹介し、商品購入を呼びかける「新“復興応援”手作り商品カタログ」を、NPO法人応援のしっぽと協同で2回発行しました。掲載団体を被災3県(岩手・宮城・福島)に広げて、Vol.2では34団体79品目を、Vol.3では34団体の89品目を掲載しました。



新“復興応援”手作り商品カタログVol.3



1



2

地域産業・生産者への復興支援



食のみやぎ復興ネットワーク

食のみやぎ復興ネットワークとは？

東日本大震災により多大な被害を受けた宮城県内の農業・漁業関係者や食品関連産業者が、互いに励まし合いながら地域復興を目指すことを目的として、2011年7月に結成しました。震災直後から、被災した生産者への作業支援ボランティア活動、支援金や支援物資の取り次ぎ、商品活動を通じた地域支援に取り組んでいます。活動の輪は大きく広がり、参加団体は236団体（2015年3月31日現在）となりました。

【商品づくりプロジェクト活動】

地域食材などの地域資源活用を目指して、一次産業の生産者と加工業者、流通業者が協力した商品開発を継続しました。16のプロジェクトを実施し、宮城県産品、県産原料を使用した加工品、県内工場加工品の開発や普及に取り組み、その数は29品目となりました。その結果、4年間で取り組んだプロジェクト数はのべ73、プロジェクトで開発や普及に取り組んだ商品はのべ114品目となりました。

【つくる 食べる ずっとつながるキャンペーン】

宮城県産の一次産品や県産原料使用商品、県内工場加工品をお勧めするキャンペーンに取り組みました。1年間を通してテレビコマーシャルの放映、地元紙での新聞広告の掲載、メールマガジンやフェイスブックを通じた情報発信を行いました。1年間にマスコミに取り上げられた回数は31回になり、宮城の復興に取り組む生産者や加工業者を励ました。

プロジェクト活動から生まれた商品

わたりのそばプロジェクトに取り組みました

津波被害を受けた亘理郡の農地でそばの栽培に取り組む生産者を応援するプロジェクトです。2013年夏から、様々なイベントや収穫された蕎麦粉を使った商品の開発と販売で生産者を応援しています。年末に販売した復興亘理そば（生麺）は短期間に1万パックの利用がありました。2015年3月には乾麺も発売されました。



復興亘理そば

【地場野菜の浅漬けプロジェクト】

県産野菜を使った浅漬けの開発プロジェクトです。伝統作物の仙台白菜漬け（塩竈の藻塩入り）、宮城生まれの野菜を使った河北菜漬け等を販売し、2014年度は新たにめぐみ野野菜の浅漬けにも取り組みました。



白菜ミックスめぐみ野春立ち菜入



3

1.なたねプロジェクト開発商品 2.わたしのそばプロジェクト花見会 3.仙台はくさい収穫祭

【仙台はくさいプロジェクト】

仙台の伝統野菜「仙台はくさい」の復活を通じて宮城の農業を応援するプロジェクトです。JAや高校生、加工業者と一緒に宮城の農業再生に取り組んでいます。



仙台はくさい収穫祭

宮城の食の情報発信を進めました

2014年7月には3年間の活動をまとめた書籍『宮城・食の復興～つくる、食べる、ずっとつながる』(西村一郎氏著)が発刊されました。



宮城・食の復興～つくる、食べる、ずっとつながる～／生活文化出版

なたねプロジェクト

津波被害を受けた岩沼の農地でなたねの栽培に取り組む生産者を応援するプロジェクトです。様々なイベントの開催や商品開発を通じて生産者を応援しています。



菜の花を見る会

みやぎを元気にするふるまい企画

ネットワーク参加団体が持つ様々なノウハウを活用して、地域支援活動「みやぎを元気にするふるまい企画」に取り組んでいます。みやぎ生協の店舗を活用して、県産野菜を使った新しい食べ方提案、メーカー様のマスコットキャラクターを使ったふるまい企画、生活を便利にする家庭用品のサンプルセット、防災商品パックなど、被災地支援の思いを込めた企画が開催されました。2014年度はのべ175団体が164の企画を実施しました。このうち、県民防災の日周辺では50団体で44企画、防災の日周辺では50団体で48企画、震災から4年を迎える時期には55団体で48企画が開催されました。会場ではめぐみ野生産者支援募金にも取り組みました。



1



2

お買い物に関する様々な支援を店舗や 共同購入で行いました

店舗での復興支援

【移動店舗 セイキょう便】

移動店舗「セイキょう便」は、被災地支援の一環として東日本大震災で近隣小売店が閉店したり、また近隣に小売店がない仮設住宅へ入居したりして、買物に困っている方への商品供給のために始まりました。2011年8月5日から1号車を、2012年3月21日から2号車を配置し、震災被害が大きい石巻市と東松島市の仮設住宅、旧アイティア店（津波で閉店）地区、気仙沼市、南三陸町で営業しています。生鮮から雑貨等の生活必需品を中心に約600種類を品揃えしています。営業地域では「セイキょう便の歌」を流して週5日営業しています。

【東北元気価格】

東北の4生協（いわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしま）のメンバーの暮らしを継続的にサポートするために、2013年度からスタートしました。2014年度も増税後のメンバーの家計を応援する目的で通常価格より10～30%値下げした商品を加工肉、ディリー、加工食品、生活関連の各コーナーで約3,200品目展開しています。商品は2ヶ月サイクルで見直しをはかり、季節の中で利用頻度の高い商品を選定しています。



買い物代行サービス こ～ぶふれあい便

「こ～ぶふれあい便」は週2回、店舗で扱っている商品を自宅までお届けする買い物代行サービスです。震災前から高齢者や身体の不自由な方などを対象としており、震災後には被災地域を中心に買い物の不便を感じている方への支援策として、沿岸地域でもサービスを行っています。子育て・妊婦の方・家族の介護など買い物代行のニーズは多様化しており、「こ～ぶふれあい便」の良さ・便利さをお知らせして利用者の拡大をすすめています。更に「安否確認」活動も県内各市町村と連携し、「高齢者見守り活動」として推進しています。「ふれあい便」対象店舗は、2015年度から鶴ヶ谷店を加え、以下の16店舗となります。

「ふれあい便」サービス実施店舗

西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、六丁の目店、鶴ヶ谷店、柳生店、明石台店、亘理店、塩釜杉の入店、愛子店、名取西店、八木山店、蛇田店

※配達エリアはお店によって異なります。



こ～ぶふれあい便のスタッフ

◆「ふれあい便」の配達エリアに関する詳細は[こちらからご覧になれます。](http://www.miagi.coop/support/fureaibin/) <http://www.miagi.coop/support/fureaibin/>



4

1.移動店舗 せいきょう便 2.せいきょう便でお買い物 3.気仙沼センターの復興夏祭り 4.共同購入ステーションの様子



共同購入の復興支援サービス

【被災した方の個人宅配手数料を100円に】

「復興支援サービス」は東日本大震災で被災した方々を対象に、1回240円の個人宅配の配達手数料を100円で利用できる仕組みです。2014年度も1,204人の新たな申し込みを受け付け、1万2,782人にご利用いただいています。サービスを「復興が実現するまで」に延長したことでも多くのメンバーに喜んでいただいている。

「がんばろうふくしま！農産品応援ボックス」

風評被害に苦しむ福島県の生産者を応援するため、福島県産の農産物を詰め合わせた「がんばろうふくしま！農産品応援ボックス」の企画を継続し、2014年度は35,147点のご利用をいただきました。利用したメンバーから産地へむけた応援メッセージも1,400件となり、生産者から「ぜひ感謝の気持ちを形にしたい」と提案があったため、7月第1週に500円（通常価格650円）の感謝価格でご案内し、約8,000点の利用がありました。メンバーから「ささやかですが福島応援続けていきたいです」などの声が多く寄せられています。



「がんばろうふくしま！農産品応援ボックス」生産者の皆さん



共同購入ステーション

共同購入で注文した商品を直接受け取りに来る受取班として、メンバーが無料で利用できる共同購入ステーションは、石巻生協文化会館アイトピア、共同購入石巻センター、蛇田店、渡波店、東松島市新東名集会所、共同購入気仙沼センターの6ヶ所で398人のメンバーに登録いただいている。ステーションを利用しているメンバーは、職員との会話やご近所さんとのふれあいを楽しみに足を運んでくださっています。

イベント車

【共同購入をもっと知ってもらうために】

共同購入イベント車とジャイロキャノピー（三輪バイク）を活用し、沿岸被災地で役立つ共同購入の紹介を行いました。生協店舗でおこなわれたイベントなどにも参加し、延べ来場者数は1万6,000人を超え、応急仮設住宅での共同購入への加入も4,116世帯になりました。



共同購入イベント車



1



2

様々な事業を通じて心通う支援を行いました

宅配水無償提供

アクアクララみやぎ生協は震災直後から被害にあった地域へウォーターサーバーを設置しアクアクララ水の無償支援を行ってきました。2014年度は牡鹿地区の保育所、宮城県漁業協同組合志津川支所、名取市や岩沼市の仮設住宅集会所など県内20施設へ、年間でボトル1,800本を届けました。



鮎川保育所

コーすけ訪問

CO・OP共済のキャラクター「コーすけ」は、被災地の子どもたちに元気を届けながら、日々、CO・OP共済の普及に取り組んでいます。

津波記憶石プロジェクト

サービスセンターでは、「復興応援しあわせのクローバーのたね募金企画」を実施しました。代金の一部を「津波記憶石建立資金」とするもので、東北6県の組合員2,058人と7団体による募金で、岩手県大船渡市と宮城県女川町に「津波記憶石」が建立されました。



宮城県女川町地域医療センター内に建立された「津波記憶石」

福島の子ども保養プロジェクト

コープトラベルでは、野外活動が可能な地域でのびのびと遊び、親子でくつろごことにより、精神的なケアにもつなげる「福島の子ども保養プロジェクト」(通称コヨット)運営をお手伝いしました。2014年度は7回企画し218人の方が遠刈田温泉で楽しく過ごしました。



3



1.福島の子ども保養プロジェクト 2.被災地の子どもたちと一緒に 3.クローバーの種企画 4.南極観測隊による南極クラス

未来を担う子どもたちに夢と希望を届けました

学校部・学校用品協会としての支援活動

【南極クラスで子どもたちを元気に!】

学校部では、提携住宅メーカー(ミサワホーム様)の協力で南極観測隊スタッフによる「南極クラス」を県内の学校11校で開催しました。"未知の世界"である南極での活動を伝えることで、未来を背負う子どもたちに夢と希望を届けました。

【凧作り・凧揚げ教室】

石巻市の小学校で、復興のメッセージや夢のある絵、元気の出る絵を描いた凧作り・凧揚げ教室を開催しました。



凧作り・凧揚げ教室

【小学校でリコーダーアンサンブルコンサート】

学校用品協会では、2014年度も子どもたちの「心のケア」となる活動を行ってきました。学校へ出向いて、「リコーダーアンサンブルコンサート」を県内小学校6校で開催しました。



小学校でのリコーダーアンサンブルコンサート

【子育て支援講演会・秋祭りイベントの実施】

こ~ぶ家庭教育センターでは、2014年10月8日(石巻)、9日(仙台)に、幼児・小学生の保護者を対象として、親野智可等先生による教育講演会(新学社ボビー様共催)を開催しました。石巻会場には約100人、仙台会場には約300人が参加しました。そのほか秋祭り、児童館まつりなど10ヶ所のイベントに約300人が参加しました。



秋祭りの様子



1

2

多くの被災地のみなさんとつながり・前進

被災地招待事業等に協賛し、笑顔と笑顔の輪をひろげました。

被災者招待企画

【東北楽天「がんばろう東北 被災地招待事業】

みやぎ生協は、昨年に引き続き楽天野球団の「被災地招待活動」に協賛しました。今期は宮城県以外の東北の小学生をメインに10試合、のべ1,084人を招待しました。球場内の見学、選手とのふれあい、ユニフォームや帽子のプレゼントなどもあり、沢山の笑顔を見ることができました。

また、福島県相馬市に建設された「こどもドーム」の建設募金活動にも協力しました。

【ベガルタ仙台】

ベガルタ仙台が主催する「宮城・東北ドリームプロジェクト」に協賛し、2014年10月26日に女川町の子どもたち90人をユアテック・スタジアムの柏レイソル戦に招待しました。ピッチに立ち入場する選手とハイタッチ、ベガッタ君と記念撮影するなど楽しい1日を過ごしました。



【みやぎ生協プレゼンツ「89ers冠試合】

2014年12月6日、仙台ゼビオアリーナで開催されたバスケットボール「89ers」の公式戦に被災沿岸地域(名取市)のバスケットボールチームの子どもたち107人を招待しました。オリジナルのTシャツプレゼント、選手との手つなぎ入場、ハーフタイムアトラクションなど自分達もコートに立つことができ、満足した1日を過ごしました。

【県民のみなさんへ復興支援活動を広告】

東日本大震災から4年目の3月11日に、みやぎ生協の復興支援活動を紹介する新聞全面広告を河北新報に掲載しました。被災地はまだまだ復興の途上ですが、震災の被害を忘れることなく、これからも被災者・被災地の支援に取り組みます。



【行政、町内会や大学などと共に】

「震災を風化させない」「被災地に元気を」など、復興を支援する生協として以下の企画に協賛し、復興支援の一翼を担いました。「やりましょう盆踊り」「今できるプロジェクト」「第7回日本高校ダンス部選手権」「大学祭(東北大、宮城大、東北大、東北学院大)」など。



1. 楽天招待試合 2. 実際の津波の高さを表示した柱 3. 震災学習・資料室内 4. 東日本大震災を忘れないつどい

3.11 東日本大震災を忘れない

東日本大震災を風化させないこと、災害時に社会のインフラとしての役割を果たすこと。

東日本大震災 学習・資料室

東日本大震災を忘れず、みやぎ生協が震災発生後に取り組んだことや他生協からの支援状況などを理解するとともに、後世に伝え続けるための施設として、2013年3月5日に文化会館 ウィズ内に「東日本大震災学習・資料室」を開設しました。みやぎ生協に新たに入協した職員には、必ずこの学習・資料室で学ぶことを義務付けています。また、メンバーや他生協の方など、開設から2年間で、来場者は3,000人を超きました。



「被災地は今」の情報発信

震災からの復興を目指す被災者・被災地にとって、風化は大きな問題です。被災地ではまだ多くの困難な問題を抱えているにも関わらず、全国的なメディアでは徐々に取り上げられることが少なくなっています。

被災地の復興のためには、国や自治体の施策が重要なのはもちろん、国民の皆さんのが被災地の問題に常に关心を持ち、忘れないでいただくことが大切です。

みやぎ生協では2013年9月から月に1回、被災地の実相を伝える情報を全国約60の生協、事業連合、県連に提供し、組合員向け機関誌や部内報、ホームページなどで掲載していただいている。この情報は、みやぎ生協のホームページでも見ることができます。

東日本大震災を忘れないつどい

みやぎ生協は、震災の記憶を風化せず、またみやぎ生協が取り組んだことを後世に伝えていくために、震災のあった3月11日に毎年「東日本大震災を忘れないつどい」を開催しています。



1



2

1.山形市

くらしと家計を支えます

相談からご融資までをサポート

「くらしと家計の相談室」では、法律の専門家や生活支援機関等とも連携をはかりながら、相談者の家計にとって最もよい改善・解決策と一緒に考えます。その手段のひとつとして、生活資金等まとまったお金が必要で、かつ相談者に返済能力もあると判断できる場合には、生協から直接ご融資も行い、家計の再生を支援しています。

【くらしと家計、お金の困りごとの改善・解決】

「大学のAO入試に合格したが、奨学金は入学後の支給で一時金を払う資金がない」「過去に税金滞納があり分納していたが、一括納税を請求され、今払う資金がない」「クレジットカードでリボ払いしていたが、いつのまにか債務が増え返済が厳しい」「震災後給料が減ったため、クレジットカードに頼る生活になり債務が膨らんだ」だれにでも起こりうる家計の危機の改善、解決策を相談者と一緒に考えています。



【相談・貸付の状況】

電話相談受付数	1,587件
面談相談者数	1,005人
延べ面談相談件数	2,006件
貸付契約件数	393件
貸付金額	3億5,816万円

(2015年3月20日現在)

みやぎ生協くらしと家計の相談室 相談からご融資までをサポート!

☎022-292-5015

仙台市宮城野区榴岡2-3-15 花本ビル8階
受付時間：10:00～17:00（日・祝日を除く）

相談事例 Case 1: リボ払いが家計を圧迫

2人目の子どもを出産、産休で収入減となり、複数枚のクレジットカードのリボ払いを利用しながら生活。いつの間にか月10万円の支払いとなり家計を圧迫。住宅ローン、自動車ローンの支払いも厳しくなり滞納。相談室ではローンについて金融機関へ相談すると同時に家計の見直しを勧め、家計簿記入と家計相談をすることを条件にカードの債務の返済を貸付で支援した。結果、家計は安定し金融機関からも金利の低い融資を受けられ、生協の貸付分は一括返済となった。

相談事例 Case 2: 転職でローンと税金を滞納

住宅ローン返済3ヶ月滞納で、返済のためキャッシングに頼る。さらに役所から滞納税金の一括請求を受け、生協への相談をすすめられた。現状の住宅ローンは返済額の見直しが必須。見直しには滞納分の精算が条件のため、生協ではキャッシング分と住宅ローン遅延分の返済を貸付で支援した。住宅ローンの見直しができ、滞納税金も税務課に再相談、分割納付となった。これまで2人だけで悩んでいたが、親族間で話し合うきっかけとなり、家計の見直しをすることができた。



内: 母子生活支援施設「むつみハイム」への提供 2.更生保護活動への貢献による法務大臣感謝状 3.日和産業(株)仙台支店様と協定を締結 4.美里町社会福祉協議会と協定を締結 5.仕分けを行ふボランティアの皆さん

大切な食べ物を必要としている人に届けます。



大切な食べ物を通して みんなの笑顔が広がりました

コープフードバンクがめざすもの

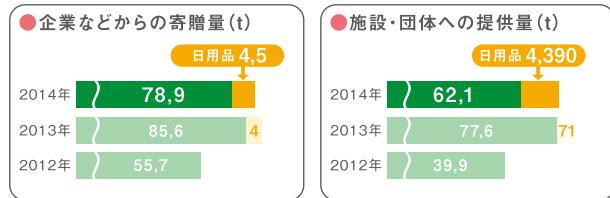
お取引先の食品企業等から余剰食品の無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織等へ無償で提供することを通して、食品の無駄をなくすとともに「誰もが安心して暮らせる地域社会づくり」をめざします。



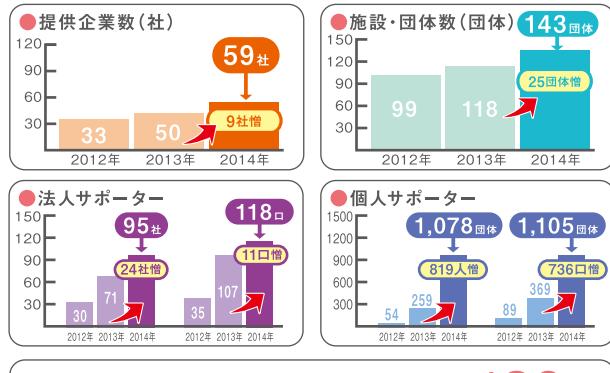
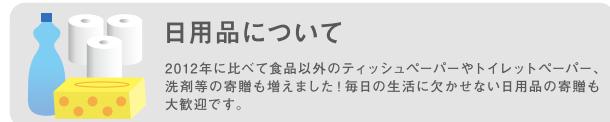
コープフードバンクの輪が広がっています

宮城・福島に続き、山形へもフードバンクの輪が広がりました。そして、宮城・福島・山形の3県でコープフードバンクと協定を結んだ施設は、145団体となりました。2014年度は、180人の方々がボランティアに参加。更生保護施設の入居者と保護観察所の職員が、毎月仕分け作業等のボランティアに参加してくださっています。このようなコープフードバンクでの社会貢献が認められ、法務大臣感謝状もいただきました。

コープフードバンクの1年間の活動



*前年度に大量の飲料等の寄贈があったため、今年度は企業等からの寄贈量が前年より減少しました。
※災害備蓄も可能な賞味期限の長い食品などの入荷があったため、寄贈量と提供量に差があります。
引き続き在庫品を管理しながら計画的に出荷します。



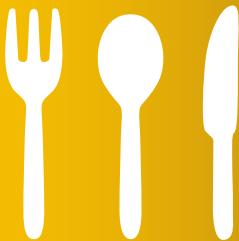
●ボランティアに参加してくれた人数(2014年) のべ180人

2015年3月20日現在、法人サポーター企業様95社(五十音順)

●あいおいニッセイ同和損害保険(株)東北本部	●大塚食品(株)	●(株)サードウェーブ	●(株)東流社	●(株)ビーフロード	●(株)マリッジパートナーズ(株)
●アクアクララ(株)	●(株)大沼製菓	●三協青果(株)	●(株)仙台トクエ	●(株)仙台放送	●(株)丸水配達
●アフラック仙台総合支社	●小山産業(株)	●サン・ベンディング東北	●(株)仙南工業	●(株)ヒューテックオノリン	●丸大堀内(株)
●(株)イーネット	●オリックス自動車(株)	●(株)シーテック仙都	●(株)第一エージェンシー	●(株)仁科会計事務所	●(株)マルニ食品(株)
●(株)イカリ消毒仙台(株)	●加藤産業(株)仙台支店	●JAかごしま茶業(株)	●(株)だい久製麺	●(株)西松建設(株)北日本支社	●(株)三菱食品(株)東北支社
●砂金石油ガス(株)	●(株)神奈川クリーニング	●JTB印刷(株)	●(株)タイハク	●(株)日專連ライフサービス	●(株)みとモーター
●(株)伊藤園南北地区量販店課	●共栄火海上保険(株)東北支店仙台支店	●(株)清水	●(株)多田紙工	●(株)日本アクセス東北支社	●(株)みやぎ県南医療生活協同組合
●内池醸造(株)	●空調技工(株)	●(株)新光東京支店	●(株)ダンク	●(株)日本生活協同組合連合会	●(株)ブランニング・オフィス社
●エムカワワ(株)	●(株)グラビアジャパン	●スモリ工業(株)	●(株)ディリーフーズ東北支店	●(株)日本労働者協同組合連合会	●(株)公益財団法人宮城厚生協会
●江崎グリコ(株)	●(株)コム	●(株)清月記	●(株)東京海上日動火災保険(株)	●(株)ボーキ佐藤燃料(株)	●(株)明治安田生命保険相互会社
●(株)エスデーファイブ	●(株)有限責任事業組合コムワーク・プロジェクト	●セルティックエンジニアリング(株)	●(株)東通インテグレート(株)	●(株)ネスレ日本(株)北日本支社	●(株)東北公法人部人営業部
●SBSゼンソウ(株)	●(株)サイコ	●(株)センケン	●(株)東北アドバンス	●(株)ノダ	●(株)やない製麺
●SBSフレック(株)	●(株)斎良工業	●(株)仙水	●(株)東北共栄建設(株)	●(株)パールライズ宮城	●(株)リブネット東北
	●佐川印刷(株)	●(株)仙台水産	●(株)東北国分(株)	●(株)ポップセンターさくら	●(株)流通サービス
				●(株)パナソニックセーフティシステム(株)東北支店	●(株)六興電気(株)東北支店
				●(株)松印松浦青果(株)	

〈第1章〉

食品の 安全・安心の 取り組み



1



食品安全を確保する仕組みをより確かなものへ

みやぎ生協 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協は、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバーの願いの実現を目指します。
そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

- 1.取引先、生産者、メンバーとコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバーへの供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。
(1)食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します。
(2)重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
(3)安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。
- 2.食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。
- 3.メンバーと産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。
- 4.県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。
- 5.食に関する学習・体験の活動にメンバー・他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。
この食品安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

放射性物質問題への対応・検査

【放射性物質検査】

「めぐみ野（産直品）」品に加え、COOP商品やアクアクララ水、一般市場品の農畜水産物の検査を商品検査センターで定期的に行ってています。2014年度は471検体の検査を行い、いずれの結果も問題はありませんでした。検査結果は、店頭掲示や共同購入の納品書、ホームページで報告しています。

放射性物質 摂取量調査の手順

2011年度から日本生協連と協力し実施しています。2014年度は29世帯のメンバーに協力をいただきました。測定の結果、全世帯とともに検出はありませんでした。

- 各家庭で食事をもう一食余分に作ります。
- 各家庭から2日分の食事とアンケート、献立調査票、食事の写真が届きます。
- 食事をミキサーで粉碎し均一に混ぜて、そのうち2リットルを検査試料とします。
- 細かくした検体を専用の容器にできるだけ隙間なく詰めます。
- 検体を詰めた容器を検出器にセットします。1検体の測定時間は約14時間です。
- パソコン上で操作して、モニターに表示されたデータから、物質の種類と濃度を解析します。

◆放射性物質問題への対応に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/products/safety/radiation/>



1.コープ東北商品の安全対策室 2.コープ東北商品検査センター 3.微生物検査 4.店舗衛生点検 5.放射性物質検査 6.理化学検査 7.工場点検

「食品の安全マネジメントシステム」の運用

【食品の安全マネジメントシステム】

各部署が「食品の安全・安心基本方針」に基いた目標と、それを実現するための教育・実施・検証の計画を立て、毎月進捗管理をして活動を進めています。

内部監査や外部監査の結果などもふまえて、取り組みの有効性を評価し、目標が達成できない場合には、その原因を明らかにして対策を補強していくことで改善を積み上げています。

【2014年度の改善例】

- ①店舗現場で内部監査を行い、表示や衛生についての不適合件数を昨年よりも削減しました。
- ②共同購買運営部では、メンバーからのお申し出を記録する際の不備件数を昨年よりも削減しました。
- ③アクアクララみやぎ生協が、宮城県の「みやぎ食品衛生自主管理登録認証制度」の認証を受けました。



◆食品の安全に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyagi.coop/products/safety/>

重大商品事故管理システム

【商品の安全対策室】

重大商品事故の兆候を見逃さないため、メンバーの「お申し出」への対応や判断に誤りが無いか、事故の原因解明と再発防止策がきちんと行われているかなど、最後までしっかりと監視しています。

2014年度も、重篤な人体被害などの重大商品事故に発展した案件はありませんでした。



「お申し出」に関するマニュアル

【「餃子事件を教訓とする月間」の取り組み】

「手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを風化させないために、毎年2月度を「餃子事件を教訓とする月間」として、事件の内容と作り上げてきた食品の安全を確保するためのルールを全職員が学習しています。



1



2

品質管理・商品検査の取り組み

メンバーに安心して商品を利用していただくために、食中毒の原因となる微生物検査や「めぐみ野」野菜（産直野菜）の残留農薬の検査等を行い、結果を衛生改善や栽培指導に役立てています。

1) 微生物検査

累計	総検体数	共同購入配達商品	店舗調理加工商品	店舗一般メーカー商品（テナント含む）	COOP商品・生産部生産品	取扱事前検査など
検体数	10,205	2,772	2,954	1,428	417	2,634

検査結果から、店舗やメーカーの衛生管理向上のために活用しました。

2) 残留農薬検査

累計	総検体数	めぐみ野 野菜	めぐみ野米	一般品
検体数	390	341	32	17

検査結果は、全て残留基準値内であることを確認しました。

3) COOP商品の原材料の確認

項目	遺伝子組み換え	品種判別	産地判別
検査品目数	4	8	5

みやぎ生協が指定した原材料で、検査で検証可能な17品目のCOOP商品について、外部検査機関で検査を実施しました。その結果、適切に使用されていることを確認しました。



残留農薬検査

顔とくらしの見える産直

「めぐみ野」

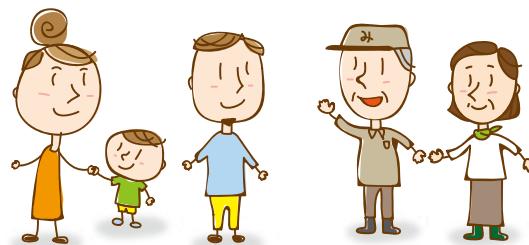
ふるさとの豊かな自然が授けてくれる恵み

生産者の方々のたゆまぬ努力によりもたらされる恵み

おいしくて安全な食卓に支えられた健やかな毎日という恵み

そして、作る人と食べる人がお互いを思いやる心の恵み

45年前にみやぎ生協の前身「宮城県民生協」の組合員と生産者の方々が「顔とくらしの見える産直」を開始しました。生産者と消費者の食に対する思いを直接結ぶことが、「産消直結」の取り組みです。



事業と運動の基本的な立場

みやぎ生協の「めぐみ野」の事業と運動は、生産者と消費者の共通の願いを実現するために、次のような基本的な立場で提携活動を進めています。

- ①健全な日本型食生活の確立と食料の安全性を高めます。
- ②食料自給率の向上をめざし、日本と宮城県の農・水・畜産業とその加工業、及び生産者の暮らしを守る国民合意の運動を進めます。
- ③産消提携活動に積極的に取り組みながら、地域経済の活性化と文化の発展、自然環境の保全に寄与します。



1.産地研修会 2.宮城県産消提携推進協議会総会 3.めぐみ野牛乳産地研修 4.めぐみ野交流集会

3

4

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」 3つの基準

- ①だれ(生産者)がどこ(産地)で作ったかがわかること。
- ②どのように(栽培・飼育)作ったかがわかること。
- ③生産者とみやぎ生協のメンバーの交流があること。

数字で見る「めぐみ野」

「めぐみ野」商品の取り扱い.....	41品目
2014年度供給高.....	54億4千万円
みやぎ生協と「産消提携に関する基本協定書」を 締結している団体(「宮城県産消提携推進協議会」).....	44団体
「めぐみ野旬菜市場」設置店舗.....	39店舗

【めぐみ野旬菜市場】

安全でおいしい野菜を食べたいというみやぎ生協のメンバーの願いと、その願いに応えたいと言う生産者の思いから生まれた「めぐみ野旬菜市場」。現在39店舗に設置し県内22の生産者グループが旬の野菜の中から自分たちの目で選んだ自信作を店舗に届けています。

今までも… これからも。

みやぎ生協 産直の出発点



1970年、組合員からの「安全でおいしい肉が食べたい」の声を受け、みやぎ生協の前身である宮城県民生協と角田市農協(当時)で、「鶏卵」「豚肉」「鶏肉」の産直を始めたのが出発点です。当時、安全性についてはあまり問題にされない時代で、生産者はその声に応えようと努力を惜しませんでした。しかし経営的には厳しかったため、組合員は「生産者の生活が成り立つ価格」での供給を提案しました。お互いの立場、環境を学び理解しあうこと。これが「顔とくらしの見える産直」の原点で、今でも受け継がれています。

生産者と共に安全・安心とおいしさにこだわりつづけます。

「めぐみ野」ブロッコリー

環境への負担が少ない農業をめざし、化学肥料の使用は、一般的の栽培の半分以下をめざしています。有機質肥料を使用しています。



「めぐみ野」トマト

甘くておいしい「めぐみ野」桃太郎トマトです。木の状態を見ながら必要な分だけ水やりをして育てています。熟してからの収穫がおいしさのポイントです。



「めぐみ野」めかぶ

宮城県志津川湾で養殖された良質のめかぶです。水揚げされためかぶは、大釜で湯通しされ、適度な粘りと風味を引き出します。



宮城県めぐみ野交流集会

第33回宮城県めぐみ野交流集会を、2014年11月26日仙台国際センターで開催しました。メンバー・生産者・産消提携団体・お取引先様・生協職員など1,370人の参加があり1年間のめぐみ野の取り組みをお互いに確認しました。また、まきのめぐみさんによる「めぐみ野の唄 ごきげんよう!」の歌の披露もあり、会場全体がとても盛り上がりいました。

TPP参加反対運動を幅広く

「TPPから食と暮らし・いのちを守るネットワーク宮城」と一緒に、TPPへの参加反対運動を幅広く他団体と協力しながら進めました。食料自給率の向上と宮城県の農・水・畜産業とそれに関わる生産者の暮らしを守るためにも、地域のメンバー、生産者と一緒にTPP交渉からの即時脱退を求めていきます。



1



2

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」の商品



「めぐみ野」きゅうり

皮がやわらかく白い粉がついている「ブルームきゅうり」です。浅漬けにすると、そのおいしさがよく分かります。



「めぐみ野」いちご

農薬と化学肥料の使用は、宮城県の一般的な栽培の半分以下に減らしています。甘さと酸味が程よく調和したおいしさです。



「めぐみ野」蔵王育ちたまご

夏も比較的涼しく、雨や雪も少ない鶏の生育に適した蔵王地区。卵を生む母鶏たちは、風通しが良く、ストレスの少ない鶏舎で飼育されています。

鳴子上原酪農牛乳25周年

鳴子上原酪農牛乳は、「毎日飲む牛乳だから、新鮮で安心なものを」という消費者の思いに共感する、11軒の生産者に限定して生産している牛乳です。清潔な生乳のために牛の乳房を毎日拭く生産者へ、消費者がタオルを寄付する「タオル1本運動」は、産地交流会での意見交換から始まり、これまで約7万本のタオルが届けられました。

生産者と消費者が一緒になって安心できる産地を育て、鳴子上原酪農牛乳は25周年を迎えました。



「めぐみ野」三陸産湯通し塩蔵わかめ

岩手県大船渡近海で養殖された、肉厚で歯ごたえが良いわかめです。しっかりと脱水してからパック詰めしているので、余分な水分や塩分は含まれません。



「めぐみ野」米

農薬・化学肥料の使用を宮城県の一般的な栽培の半分以下に抑えています。農協の垣根を取り除き、各産地が同じ栽培仕様、同じ農薬・肥料で育っています。



「めぐみ野」豚

赤豚種と白豚をかけ合わせ、やわらかくセのないおいしさになっています。



「めぐみ野」梅干

原料は、梅・しそ・塩のみ。地元・角田市でどれた梅をひと粒ひと粒、手返しながら、三日三晩以上土用干し。漬け込んでから半年以上熟成させて出荷しています。

角田丸森産牛乳20周年

「おいしい牛乳は、健康な牛から」が生産者の皆さんの合言葉です。角田・丸森地区では、牛にやさしい飼育をしています。そのため、牛の運動を重要視し、パドックで運動させています。

乳脂肪を無理に高めることはしません。乳脂肪を無理に追及することは、牛の体に負担をかけることになります。また、糞尿等の有機物を田、畑へ還元し肥料として活用するなど環境へも心配りをしています。「角田丸森産牛乳」は、20周年をむかえました。



3



4

1.職員の志津川銀さけ見学 2.JAみやぎ仙南 田んぼの学校 3.わが家の味噌作り体験 大豆の種まき作業 4.みちのくミルク(株)本社工場見学

顔とくらしの見える産直をさらに広げました。

「めぐみ野」品の普及

「いいコープの日」に店頭普及活動を実施し、毎月第一土曜日には、「めぐみ野」米の普及活動を行いました。「めぐみ野」秋祭りには、全店エリアと緑ヶ丘、イトピア、東松島、栗原の各エリアで186回2,877人のメンバーが参加し、生産者とともに「めぐみ野」商品の良さを伝え、利用をひろげました。

【「めぐみ野」産地見学・体験会】

産地見学・体験会は、89回2,815人が参加しました。交流企画の提案を増やしたこと、丸森地区産直部会から産地見学の提案などあり、昨年の実績を超えました。特に生産者との調理教室は、女性同士の交流で話が弾んで楽しいと好評でした。

【「めぐみ野」米バケツ稻栽培コンテスト】

「めぐみ野」米バケツ稻を、18店舗621家族（昨年17店舗538家族）に配付し、2014年10月にはバケツ稻栽培コンテストを実施しました。栽培日誌には日々の観察が書かれ、苗からお米になるまで、そして味わうことまでを体験しました。



バケツ稻栽培コンテスト

「めぐみ野」学習会・学習塾

「めぐみ野」学習塾・水産学習会を35回開催し、801人が参加しました。初夏のつどいでの「めぐみ野」の学習には、47回1,124人が参加し「めぐみ野」商品の特徴などに理解と共感が広がりました。



生産者を講師にした料理教室

今までも… これからも。

大雪被害生産者への支援募金

「めぐみ野」生産者支援募金に取り組みました。2014年2月の大雪被害に対して生産者支援募金に取り組み、281万1,664円を被災したそれぞれの生産者団体に贈呈しました。



「めぐみ野」牛乳 タオル1本運動

2014年度のタオル1本運動では、7,185本のタオルを「めぐみ野」牛乳生産者へ贈呈し、生産者の費用の軽減と応援に繋げました。

〈第2章〉

メンバー(組合員) &社会貢献 活動



1



自主的でいきいきとしたメンバー活動を進めています

メンバー(組合員)活動

【こ～ぶのつどいで楽しいひととき】

みやぎ生協の良さを知っていただき、地域でのふれあいや絆を深めあう場として、初夏と秋に宮城県内各地域で、こ～ぶ委員会による「こ～ぶのつどい」を開催しました。徒歩でも参加できるように、生協の集会室だけではなく、地域や仮設住宅の集会所などでも実施しました。

参加したみなさんが楽しく学べるように、こ～ぶ委員会独自の企画や「めぐみ野」生産者・お取引先様・行政やNPOの学習会などの企画をしました。

【楽しくてためになるこ～ぶ委員会活動】

生協のさまざまな取り組みについて学習したり、興味・関心のあることを企画したりして、「楽しくてためになるこ～ぶ委員会」活動をすすめています。2014年度は、平和やくらし、震災からの復興、「めぐみ野」商品・コープ商品の特徴についての学習などを、楽しみながらおこないました。



楽しくおしゃべり



サークルカルチャー発表会(利府店)

【サークル活動・カルチャー活動】

「あつまる」「つながる」ことに価値をおいたコミュニティ活動として「サークル活動」「カルチャー活動」を展開しています。

「サークル」はくらしや趣味を通してわいわいする活動、「カルチャー」は生協に登録した講師のもとで趣味や文化活動を通して楽しむ活動です。あわせて約6,000人のメンバーが集会室などで活動しています。

こ～ぶ委員会、こ～ぶのつどい、はん会

項 目		2013年度	2014年度
こ～ぶ 委員会	委員会の数	324	330
	委員人数(人)	2,885	2,767
こ～ぶ の つどい	初夏のこ～ぶのつどい参加人数(人)	11,900	10,840
	秋のこ～ぶのつどい参加人数(人)	11,566	11,346
はん会	紫陽花はん会開催数(回)	6,350	6,131
	秋桜はん会開催数(回)	5,692	5,497

◆メンバー活動の詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyanig.coop/member/>



2



3



4

1.こ～ぶのつどい「BINのふたにデコレーション」 2.こ～ぶのつどい「おすすめ商品の試食」 3.コープ化粧品学習会 4.5ADAY食育体験ツアー

食の活動と子育て支援

【5ADAY食育体験ツアー】

5ADAY食育体験ツアーは、食育を通じて野菜や果物摂取の大切さを訴えていく運動です。小学生が食育インストラクターや店の人に話を聞き、「買い物ゲーム」や「サラダ作り」で野菜や果物を直に見て、触って、味わい、学習します。2014年度は県内21校で54回実施され、1,804人の児童が参加しました。



たべる・たいせつ料理教室

【たべる・たいせつ料理教室】

「めぐみ野」米を主食にした和食（日本型食生活）の学習と、主菜・副菜のそろったヘルシーなごはんメニューの調理をする料理教室を、気仙沼メンバー集会室「ぽけっと」、蛇田店、ウィズ、名取西店、白石店の5会場で開催しました。メンバー71人が参加し、鶏むね肉をやわらかくおいしく食べるための下処理、切り方などを学びました。

【食の安全と食育、食生活の向上】

メンバーの「安全安心な食生活を送りたい」という願いをもとに、よりよい食の環境づくりをすすめています。「食生活提案」では4つの基本テーマ「①楽しく、おいしく食べよう。②バランスよく食べよう。③食に興味を持とう。④食の安全に関心を持とう。」を軸に活動をすすめました。

みやぎ生協では、お取引先様の企業にご協力いただきメンバーを対象に商品学習会や工場・施設見学を実施しています。また、被災者支援として仮設住宅集会所での企画も実施いただき、住民の方々に喜ばれています。

2014年度見学会にご協力いただいたお取引先様（順不同・敬称略）

- 株ナリス化粧品 ●キリンビール仙台工場 ●ホクト㈱ ●株志田金 ●株ニチレイフーズ
- 新港リサイクル㈱本社工場 ●株だい久製麺 ●ニッカウヰスキー仙台工場 ●雪印メグミルク㈱
- JA全農みやぎ青果物セットセンター

2014年度学習会にご協力いただいたお取引先様（順不同・敬称略）

- 三菱食品㈱ ●バスクリン㈱ ●小川珈琲㈱ ●服部コーヒーフーズ㈱ ●UCC上島珈琲㈱
- 森永製菓㈱ ●雪印メグミルク㈱ ●株明治 ●カゴメ㈱ ●大塚製薬㈱ ●ユウキ食品㈱ ●フジッコ㈱
- 太子食品工業㈱ ●株みすずコボレーシヨン ●株MNUラーメン ●日清オイオリグループ㈱
- 株ナリス化粧品 ●伊那食品工業㈱ ●石井食品㈱ ●株加工達 ●エバラ食品工業㈱
- オタフクソース㈱ ●ブルドックソース㈱ ●キッコーマン食品㈱ ●ハウス食品㈱ ●エスビー食品㈱
- 株クラブコスメティックス ●スリーエムジャパン㈱ ●マルハニチロ㈱ ●ホト㈱ ●株マックプランニング
- 株仙台水産 ●株伊藤園 ●カタギ食品㈱ ●白鶴酒造㈱ ●サンスター㈱ ●カルビス㈱ ●株クレハ
- 味の素冷凍食品㈱ ●イトーアンド㈱ ●株ヤマダフーズ ●株ミツカン ●キユーピー㈱
- 株ニチレイフーズ ●株日本香堂 ●株日専連ライフサービス ●森永乳業㈱
- 東北電力㈱石巻営業所 ●株志田金 ●株コモ ●株協同乳業 ●ヤマキ㈱ ●白雪デイリー㈱
- 株タカキベーカリー ●株徳山物産 ●タカノフーズ㈱ ●メルシャン㈱ ●宮城中央ヤクルト販売㈱
- 株アイケイ ●株ジェーシーコムサ ●株バーレライス宮城

◆ 5ADAY食育体験ツアー開催の様子は[こちらからご覧になれます。](http://www.miyanagi.coop/member/shokuiku/5aday/) <http://www.miyanagi.coop/member/shokuiku/5aday/>



1



2

食の活動と子育て支援

【子育てひろば】

未就園児の親子を対象に楽しい時間を過ごせる場を23会場で提供し、親子で3,350人の参加がありました。

【子育てふれんずニュース】

子育て世代の編集委員が、楽しくてためになる旬な情報を年4回ニュースにして2,300人に届けました。

くらしと豊かな地域づくり

【こ～ぶくらしの助け合いの会は設立30周年】

「困った時にメンバーどうし助け合えたらいいね」の思いから1985年にスタートした助け合いの会は、今年30周年を迎えます。高齢者への家事支援からスタートした活動が、今では病気や障がいのある方、子育て家庭への支援など内容も多岐にわたっています。また、ゴミ捨てなど短時間の依頼もあることから、2014年6月から30分単位で利用できるようになりました。また草取りや窓拭きなどの体力仕事は活動会員の負担に見合った料金に変更し、活動しやすくなりました。こ～ぶ委員会との連携も進み、80人の目標を上回る106人の新しい活動会員が増えて、助け合いの輪が広がりました。

こ～ぶくらしの助け合いとは

メンバーどうしの助け合い活動として1987年に会が設立されました。活動は「やってあげる」「やってもらう」関係ではなくお互いに対等な立場を保つという姿勢で、利用会員の支援を受ける気持ちの負担を軽くするために有償で行います。

会員になるためにはみやぎ生協のメンバーであること、入会時には1,000円（翌年以降は年会費1,000円）が必要です。

会員数：活動会員517人・利用会員1,505人・賛助会員471人（2015年3月20日現在）

【おかいものキッチン・おはなしキッチン】

買い物から調理まで、子どもが自ら考えて行動する力と社会性を育む事を目的とした「おかいものキッチン」を、3会場で実施しました。また、絵本を通して想像（創造）する力を育み、親子でコミュニケーションを図ることを目的にした「おはなしキッチン」は、親子20組の参加があり、楽しく参加ができたと喜ばれました。



高齢の利用会員のお宅で話し相手の活動（仙台市）

【くらしサポートガイドブック】

メンバーが困った時に役立つように、みやぎ生協の事業や活動の情報をまとめた冊子です。買い物に不便を感じているメンバーのための事業紹介や、こ～ぶくらしの助け合いの会、こ～ぶ福祉会などの情報をまとめました。

このガイドブックは、秋のこ～ぶのつどいで配布したり、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなどへお届けしたりしたほか、買い物に来られたメンバーが手に取りやすいように店頭のサービスラックにも配置しました。





3



4

1.2015年度から改定される介護保険制度について各地域で学習会を開催。(気仙沼市) 2.食育活動おかいものキッチン 3.未就学児とママたちの「子育てひろば」 4.「ヒロシマ平和行動」参加者

平和とくらしの見直し活動

【ヒロシマ平和行動】

2014年8月4～6日に行った「ヒロシマ平和行動」で被爆者の体験を学習した参加者の報告会を、8月23日に開催しました。

37人が参加し、広島へ派遣した親子3組、個人2人の報告では、「被爆の実相を学び戦争はいけないと感じました。歴史の事実を次世代が継承しなければ平和は守れません。」という意見が出されました。



【笑いで学ぼう憲法を!】

2015年1月26～29日、県内横断型憲法学習会「笑いで学ぼう憲法を!」が県内6会場で開催され、合計423人が参加しました。大阪の芸人「コバヤン」が、現在の憲法と自民党の改正草案の内容の違いについて、笑いを交えながら公演しました。



【憲法九条を守る活動】

「憲法九条を守り生かす宮城のつどい2014」が2014年11月15日仙台サンプラザで開催され、約1,800人が参加しました。東京大学大学院教授の小森陽一氏が「九条の危機を押し返すために」と題して講演し、「日本を戦争のできる国に“しない”“させない”憲法を守る草の根の運動の底力を見せましょう」と話しました。

【沖縄戦跡基地めぐり】

現在の沖縄問題やこれからの平和について考えることを目的とした「沖縄戦跡・基地めぐり」では、2014年3月25～27日に親子3組、個人1人を派遣しました。その報告会を4月5日に開催し、21人が参加しました。

地上戦の傷跡や今なお残る米軍基地など、沖縄の現状を目のあたりにして、平和の大切さを訴えました。

福祉共同作業施設への支援

【ふれあい製品のお店「はあと」】

セラビ幸町店にあるふれあい製品のお店「はあと」は、「仙台市障害者販売業務訓練等事業」を行う場所の一つです。障がいのある方が、福祉施設で作られた製品の展示販売を行い、接客を通して一般就労へ向けた経験を積む機会となります。店舗の無償提供を継続し、のべ311人がボランティアとして協力しました。

【ありのまま舎会報折り込みボランティア】

西多賀の社会福祉法人「ありのまま舎」が毎月発行している会報の折り込み作業に、のべ27人がボランティアで協力しました。

◆平和とくらしに関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/heiya/>



2014年度上期

こ～ぶほっとわ～く助成金贈呈式

2014年9月6日(土)みやぎ生活協同組合

1



2

地域社会への貢献

【こ～ぶほっとわ～く助成金2014年度助成】

2014年度は39団体に9,492万2千円の助成を行い、これまでの助成累計はのべ429団体約8,600万円になりました。

こ～ぶほっとわ～く助成金助成団体一覧

つるがや元気会
宮城県メンタルヘルス村。
東北HIVコミュニケーションズ(THC)
荒ひろみ
すまいる作業所
宮城県自閉症協会
アリエッティの会
ばくらのがっこ
ボーダレスアートクラブBAC仙台
特定非営利活動法人 地星社
公益社団法人 日本てんかん協会宮城県支部
みやぎ多胎ネット
一般社団法人ワタママスマイル
特定非営利活動法人 スマイル劇団
石巻子ども未来図書館
特定非営利活動法人ユアパートナーおおさき 指定生活介護事業所 つばさ
社会福祉法人 石巻祥心会 障害福祉サービス事業所くじらのしっぽ
特定非営利活動法人 自閉症ピアリンクセンター ここねっと
リカバリーパレード「回復の祭典」in仙台実行委員会

2014年度上期
助成数:19団体
助成金451万2千円

特定非営利活動法人 優愛
加茂3丁目ボランティアの会
ココロのびのび★プラネット
特定非営利活動法人 エバーオンワード
工藤手話企画
みやぎ夢燈花
特定非営利活動法人 笑顔のお手伝い
おやこアロマケア なでなで
地球村アクティビティーズ
ふれあい学びネットいづみ推進委員会
仙台心のケア研究会
一般社団法人 フレンドくらぶ
NPO法人 World Open Heart
日本ALS協会宮城県支部
NPO法人 ミューズの夢
アリエッティの会
NPO法人 アートワークショップすんぶちよ
cara*cara(カーラ*カーラ)
一般社団法人 恵のもり
ARTSforHOPE(アーツフォーホープ)

2014年度下期
助成数:20団体
助成金498万円

今までも… これからも。

こ～ぶほっとわ～く助成金

1992年にみやぎ生協創立10周年を記念して「こ～ぶほっとわ～く基金」を創立し、年2回宮城県内で地域福祉活動の向上のために活動している団体や個人に助成してきました。

2013年度より「こ～ぶほっとわ～く助成金」として生まれ変わり、上期と下期の年2回で1回500万円を上限に、県内の民間団体・ボランティアグループ・個人を対象として、地域福祉活動・調査研究・シンポジウム開催などへ助成を行なっています。

【首長・議員懇談会】

震災後の復興や被災者支援・地域福祉について、首長や議員と懇談し意見を交換する場として毎年開催しています。2014年度は初めて仙台市と懇談し、20自治体、6選挙区の県議懇談・5選挙区の市議懇談を開催。メンバー731人が参加し、関心の高い取り組みとなっています。



奥山恵美子仙台市長と初めて懇談しました



3



4

1.2014年度上期こ～ぶほっとわ～く助成金贈呈式 2.フェアトレードカフェを開催 3.松島医療生協・コープネット事業連合の皆さんと連携したふれあい喫茶(東松島) 4.子どもたちも参加したハンド・イン・ハンド(長町店)

【他団体やNPOとの連携】

被災者の暮らしを応援する活動を、行政・他団体・NPOなどさまざまな団体と連携してすすめました。

県北	気仙沼市社会福祉協議会、気仙沼NPO/NGO連絡会、青空エコカフェ、気仙沼市地域づくり推進課、気仙沼健康長寿推進隊
石巻	東松島復興協議会、コープネット事業連合、松島医療生協
仙南	名取市社会福祉協議会、名取市被災者支援連絡会、などり復興支援センターひより、岩沼市社会福祉協議会、岩沼市復興支援センタースマイル、岩沼市里の杜サポートセンター、亘理支えあいセンター「ほっと」、亘理町被災者支援課、山元町社会福祉協議会、やまと復興応援センター、みやぎ県南医療生協、NPO法事住民互助福祉団体ささえ愛山元(愛広館)
仙塩	六郷・七郷コムネット、若林復興の輪ミーティング、坂総合病院、一般社団法人パーソナルサポートセンター、仙台市社会福祉協議会(仙台市中核支えあいセンター、支えあいセンターいづみ)、青葉区まちづくり推進課、若林区まちづくり推進課、太白区家庭健康課、NPO法人POSSE
全体	みやぎ連携復興センター(れんぶく)、NPO法人応援のしっぽ、学都仙台コンソーシアム復興大学災害ボランティアステーション、宮城県行政書士会、一般社団法人パーソナル・サポートセンター、NPO法人アイスク

国際協力の取り組み

【様々な途上国支援】

特定非営利活動法人ハンガーフリーワールドの活動に協力し、書き損じハガキ、切手、CDなどを回収・換金し、4つの発展途上国の自立支援の活動と「みやぎ生協平和募金」に役立てています。

また、購入を通じて参加できる身近な国際支援活動の「フェアトレード」についてお知らせする「フェアトレードカフェ」を2015年2月に開催しました。45人の参加者による人気商品投票なども行い、この取り組みの理解を広げることができました。

【アンゴラの教育支援に協力】

「CO-OPコアノン・スマイルスクールプロジェクト」では、対象のトイレットペーパー1パックの購入で1円がユニセフに募金され、アンゴラの教育支援に役立てられます。2010年から全国の生協で取り組まれ、過去4年間で4,100万円となり、今後も継続されます。



安全な水の整備、トイレの設置、先生の育成など、楽しく学べる学校の環境づくりに使われます

【ユニセフの取り組み・20年目】

開発途上国の子どもたちの命と健康を守り、子どもたちの未来を支えるユニセフ支援に取り組んでいます。店舗等での写真パネル展やハンド・イン・ハンド(募金活動)、対象商品を購入することでユニセフに協力するキャンペーン募金が積極的に行われました。2015年9月に宮城県ユニセフ協会は20周年を迎え、これからも地域に根ざした「ユニセフの輪」を広げていきます。

■2014年度ユニセフ募資金額

メンバーからの一般募金	6,306,043円
お取引先様キャンペーン募金	817,280円
牛乳パック回収による募金	2,368,821円
ペットボトルキャップ回収による募金	21,729円
合 計	9,513,873円

■ユニセフ募金応援キャンペーンにご協力いただいたお取引先様 2014年度第1期(10～11月):44社、第2期(2～3月):44社(順不同、敬称略)

(株)J・オイルミルズ、UCC上島珈琲(株)、UHA味覚糖(株)、アサヒ飲料(株)、アサヒフードアンドヘルスケア(株)、アース製薬(株)、岩塚製菓(株)、江崎グリコ(株)、エバラ食品工業(株)、大塚食品(株)、オタフクソース(株)、花王カスタマーマーケティング(株)、カゴメ(株)、亀田製菓(株)、上山製紙(株)、キッコーマン飲料(株)、銀河フーズ(株)、クラシエフーズ販売(株)、(株)幸田商店、国分(株)、小山産業(株)、小山商店(株)、相模屋食料(株)、(株)サンエイ海苔、三幸製菓(株)、(株)シーテック仙都、昭和産業(株)、(株)スミフレ、(株)仙水デイリー、仙台コカ・コーラボトリング(株)、太子食品工業(株)、清沢ハム(株)、成田食品(株)、(株)東流社、日清食品(株)、日清オイリオグレーブ、日本生協連、日本製紙クリシア(株)、日本製粉(株)、日本ハム東販売(株)、ネスレ日本(株)、はごろもフーズ(株)、はたけなか製麺(株)、ハナマルキ(株)、ブリマハム(株)、細川製餡(株)、フルタ製菓(株)、ボッカサッポロフード&ビバレッジ(株)、マルコ(株)、丸大食品(株)、マルハニチロ(株)、(株)Mizkan、明星食品(株)、(株)明治、モランボン(株)、森永製菓(株)、森永乳業(株)、(株)ヤクルト本社、ヤマサ醤油(株)、雪印メグミルク(株)、ライオン(株)、ロッテ商事(株)

〈第3章〉

事業活動



1

くらしに役立つ事業活動のた

コンプライアンスの徹底

【公正な取引の徹底】

「公正な取引の徹底」はみやぎ生協の事業活動にとって、もっとも重要なものであると同時に、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（独占禁止法）の第19条（不公正な取引方法の禁止）及び、一般指定第14号（優越的地位の濫用）や下請法に抵触するような優越的地位の濫用は、決して行いません。

【外部通報制度】

お取引先様とみやぎ生協の間には、生協や役職員に何か問題があった場合に、委託先を介して通報いただく仕組みを設けています。通報があった場合は、必要な調査などを十分に行い、通報者に納得いただける対応をします。

【各種法令の遵守】

みやぎ生協が事業活動を行う上で遵守しなければならない法令は多岐にわたります。2013年7月より、事業活動に関する法令の改定等を把握する仕組みを導入し、適切な対応を行うよう努めています。

【お取引先様とのパートナーシップ】

毎年6月、お取引先様の協力をいただきながら「みやぎ生協の方針説明会」を開催しています。これは、お取引先様にみやぎ生協の次年度の方針をご理解いただき、よりよきパートナーシップを形成していく一助とすることを目的としています。

1982年にみやぎ生協が設立して以来続いている会で、2014年度はお取引先様約894社、1,293人の方々に参加いただきました。

店舗

【時間と空間を大切にし、人にやさしい店舗に】

探しやすい売り場、選びやすい商品陳列、見やすい案内表示に努め買い物を楽しい時間にします。また全店に「サービス・ケア・アテンダント（高齢者やお身体の不自由な方、買い物で困っている全ての方々へのサービス）」の資格者を配置し、人にやさしい店舗運営に努めています。



鶴ヶ谷店の生鮮売場

【シニアメンバー登録が10万人を突破】

シニアを対象とした毎週木曜日のスタンプキャンペーンでは2014年度シニアメンバーの登録年齢を60歳に引き下げ、登録者が10万人を突破しました。メンバーからも買い物が楽しみになったとの声を多数いただきなど、地域のメンバーへ着実に認知していただいています。





1.太子堂店オープン初日 2.長町店10月16日オープン 3.太子堂店12月4日オープン 4.大河原店改装オープン

めに

【長町店、太子堂店オープン】

5年ぶりの新規店舗として、2014年10月16日長町店・12月4日太子堂店が開店しました。長町店は日常の買い物に便利な新しい300坪タイプのモデル店として、太子堂店は600坪で、暮らしの変化に対応した新しい品揃えの実験店です。惣菜売場の拡大やレンジアップ商品、カット済み野菜など、簡便商品の品揃えを増やしたことが特徴です。施設面では、くつろげる休憩スペースを設置しました。また、バリアフリー・ユニバーサルデザインはもとより、災害に強く営業を継続できるよう耐震化や太陽光発電設備を設置しました。

【電子レシート「スマートレシート」サービスを開始】

全国初の取り組みとして2014年11月1日より「スマートレシート」をみやぎ生協全店で導入しました。「スマートレシート」は、これまで紙で受け取っていたレシートを「電子レシート」としてスマートフォンで管理・確認ができる、紙や電気の使用量削減に繋がる環境に優しい取り組みです。



【生産部】

ミートセンターでは、だれでも簡単に調理できる肉・魚・カット野菜・特製のたれ・レシピをセットした「ちゃちゃっとお料理パック」の供給を共同購入で始め、出荷高が伸びています。フッシュセンターでは「生寿司」に加えて、店舗の「押し寿司」の供給を10月から新たに開始しました。豆腐・揚げ工場では、こーぶ委員会での試食、つどいでの学習会、工場見学会で、メンバーに商品を紹介しました。

また、共同購入で「冷凍寿司」「冷凍押し寿司」の供給を2014年4月から始めました。さらに、具材入りの「揚げ」や「がんも」、「揚げだし豆腐」の開発を進め、共同購入で供給する計画です。





1



2

共同購入

【地域とともに高齢者を見守り活動】

増え続ける高齢者の一人暮らしや夫婦のみの世帯を見守る取り組みとして、宮城県や県内全35市町村と「高齢者見守りの取り組みに協力する協定」を締結しています。配達担当者が配達に伺った際に『いつもと違う、気になる事』があった場合、各自治体が指定する窓口へ速やかに情報連絡を行います。「地域のみんなで高齢者を見守る体制づくり」の一端を担っています。

●共同購入職員による見守り活動

活動を開始した2012年10月から、合計70件の「いつもと違う、気になる状況」の連絡と対応がありました。配達担当者が異変に気づき、センターへ報告しセンターから行政窓口へ連絡しています。引き続き地域に寄り添った取り組みとして、継続します。

●個配・メールサービス

利用者の配達時の在宅状況を、離れて暮らす家族のメールアドレスへお知らせするサービス(登録無料)を継続します。

●ガスあんしん見守りサービス

コープガスを安心して利用いただくため、お年寄りの一人暮らしなどで一定期間全くガスが使用されていない場合、ご家族や友人へメールやFAXで自動的に通知するサービス(登録無料)を行っています。



高齢者見守り感謝状(古川センター)

【「ママ割」期間の延長】

共同購入を多くのメンバー(組合員)に長く利用していただくため、5つの配達手数料サービスを提供しました。その中で、配達手数料が半額(120円)となる「ママ割」の適応期間を、2015年2月第4週より「1年間(52週間)」から「お子様が6歳の誕生日の20日を含む週まで」に延長しました。利用者の中で新たに4,858人のママ割利用者が増え、子育て応援サポートの一環として喜ばれています。

【夕食宅配サービス】

毎日の調理が大変な方に夕食用のお弁当を宅配する配食サービスは、一日あたり約1,500人のメンバーにご利用いただけ 約1,800食をお届けしています。時季に合わせたメニュー提案で、一人暮らしの高齢者からも「クリスマスを一人で祝うことなどしていなかったのに、ケーキのプレゼントに嬉しくなりました」などのひと声をいただき、喜ばれています。年末年始の祭事や冬至に郷土料理として「かぼちゃ」や「柚子」を使用したお惣菜を提供するなど、今後も喜んで利用していただけるメニュー提案を続けていきます。



夕食宅配「御膳コース」(例)



3



4

1.気仙沼センター 2.石巻センター子育て支援イベント 3.CO・OP共済カウンター 4.福島での産直ツアー参加者

くらしのサービス

【メンバーの声から生まれたCO・OP共済】

共済センターでは、メンバーが暮らしの保障やお金について学ぶ活動「ライフプランニング活動」を支援しています。その活動の一環として「おこづかいゲーム」を実施しました。今後は、アドバイザーによる「夢をかなえる! ライフプラン個人相談会」を実施し、メンバーの保障に対する悩みに応えて行きます。



おこづかいゲームの様子

【環境・省エネリフォームの取り組み】

住まいのセンターでは、自然エネルギーによる発電とCO₂排出を削減することで環境保全に貢献できる断熱ガラスと太陽光発電の普及拡大に取り組みました。店舗で断熱ガラスのサンプルを使った熱伝導を体験できる「無料相談会」を延べ55回、太陽光発電は54回実施しました。また、コープの快適リフォーム情報誌「Reフレッシュ」でも断熱ガラスを毎回紹介しました。断熱ガラスを利用されたメンバーからは、「冬の暖房費が節約できた。夏の冷房費の節約も楽しみ。」「結露が気にならなくなった。」などの声をいただいています。



【宅配水(アクアクララみやぎ生協)】

県内1万100世帯が利用しているアクアクララみやぎ生協は、宮城県の登録審査を受けて「みやぎ食品衛生自主管理認証事業所」の認証を取得しました。また、宮城県から食品衛生優良施設として表彰されました。この表彰制度は、県内保健所に推薦された施設の中から優良と認められた施設が表彰される制度です。県内から4施設が表彰され、その内の一つが宅配水センターでした。これを機に更なる衛生管理を進め、利用者に安心して頂けるアクアクララ水を提供できるよう衛生管理を強化していきます。



みやぎ食品衛生自主管理認証ロゴ



優良施設表彰状

【コープトラベル】

(株)コープトラベル東北は、みやぎ生協、いわて生協、生協共立社の出資で1994年に旅行事業を開始しました。メンバーの宿泊手配やお取引先様の社員旅行等、様々な旅行を取り扱っています。生産者と消費者が繋がっている生協だからこそできる産直交流事業の企画は、参加者から好評です。2014年は被災地訪問を視察する全国の生協の受け入れも行いました。

【共済カウンター】

県内37店舗に共済カウンターを設置し、CO・OP共済を広くご案内しています。毎日たくさんのメンバーにお立ち寄りいただいているいます。



1



2

こーぶ福祉会

【生協による介護福祉】

「こーぶ福祉会」はみやぎ生協の福祉の理念を介護保険事業で実践するために、みやぎ生協が設立母体となって1999年に設立されました。2015年に16年目を迎える社会福祉法人です。「心豊かで健やかな暮らしのお手伝い」「優しさと思いやりを持ったひとづくりのお手伝い」「ふれあいとぬくもりのあるまちづくりのお手伝い」を基本理念として、桜ヶ丘、いしのまき、緑ヶ丘の3ヶ所の「こ～ぶのお家」と生協文化会館ウイズに、ケアプランセンターと福祉用具を設置しています。

「こ～ぶのお家」ではデイサービスセンター、ヘルパーステーション、ケアプランセンター、訪問看護ステーション（桜ヶ丘、緑ヶ丘）を運営しています。また、みやぎ生協桜ヶ丘店舗内で仙台市委託事業である桜ヶ丘地域包括支援センターを運営しています。

こうしたこーぶ福祉会を支える後援会会員数は163人、職員数は総勢178人です。

3つのデイサービスセンター合計で1ヶ月平均約1,800人の介護保険対象者が利用し、その運営やこーぶ福祉会の活動を1ヶ月平均約330人のボランティアが支えています。

【「介護の基本」を整理】

こーぶ福祉会として外部研修をおこない、「介護の基本」（考え方、マニュアル、カリキュラム）を再整理し、各事業所の実践統一の取り組みを開始しました。

【こーぶ福祉サロン】

「こ～ぶのお家いしのまき」を会場に、被災地の高齢者のつながりの場として「こーぶ福祉サロン」を月2回、2014年度はのべ18回実施し、被災者204人とボランティア174人が参加しました。また社会福祉法人協同福祉会（奈良県）、大和郡山

ロータリークラブの方々の支援で、全国金魚すくい大会石巻予選大会を実施し、上位2人が奈良県の本選に招待されました。

さらに、コンサートや鹿児島のさつまいも・柑橘類配布などの企画を、地域の方のべ562人とボランティアのべ122人が協力して実施しました。

【定期巡回随時対応型訪問介護・看護事業】

「2014年度仙台市特別養護老人ホーム整備事業」に応募ましたが、受託できませんでした。在宅介護を支え、地域の介護システムを強化するために桜ヶ丘、長命ヶ丘、八乙女など7つの中学校区で仙台市の定期巡回随時対応型訪問介護・訪問看護事業を受託し、1月15日からサービス提供を開始しました。

みやぎ生協と協力して、2016年度に地域型保育事業の「事業所内保育施設」を計画します。

学校部・(株)宮城県学校用品協会

【COOP授業に役立つ学習ガイド】

学校部では、みやぎ生協で行っている環境・食・福祉・ユニセフなどの活動から、学校での学習素材として使えるものを『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』にまとめ、県内全小・中各学校へお届けし情報を提供しています。



※ビデオ貸し出し、資料提供・頒布、生協店舗や取引先見学、生協事業所職場体験等の受入など



3



4

1.デイサービスでの体験 2.機器を使った機能訓練(桜ヶ丘) 3.なら共働福祉会を招いた「介護の基本」の講習会 4.2014年度研究活動助成金交付

【学校教材販売事業】

みやぎ生協子会社の(株)宮城県学校用品協会の学販部門は、学校用品協会後援の県書きぞめ展で使用する教材教具、備品、体育着などを取り扱っています。「よりよい教材をより安く」というテーマのもと、日常的に教育現場の先生方のご意見を聴き取り、児童生徒に役立つ、先生にとって指導しやすい教材の提供をモットーにしています。また、各小中学校教科研究会の編集、発行している出版物・図書の編集、販売支援をしています。代表的なものとしては、小中書写研究会の書きぞめ手本作成印刷、書きぞめ展の開催、仙台市小学校教科研究会編集発行の夏休みドリル帳があります。今年の書きぞめ展覧会には、2万3,000人の来場者がありました。



書きぞめ展覧会の様子

【職場体験・見学の受け入れ】

職場体験実習・見学は、店舗を中心に共同購入、学校部、デイサービスセンター、産直コースなどを設定しています。2014年度は職場体験・実習職場見学へ132校、食育体験店舗ツアーアーへ21校(計55回、累計1,721人)を受け入れました。

●職場体験・施設見学・体験学習のお申込手順

学校部受付【FAX】

研修受入窓口(総務部人事教育課教育担当)

各事業所責任者に受入要請

研修先が決定

総務部から申込みいただいた学校の責任者の方へ連絡

【学校教育に役立てられている教育助成制度】

(株)宮城県学校用品協会では、「小中学校の教育実践活動への助成を通して、宮城県内の学校教育の進展に寄与すること」を目的に、学校用品事業を通して生まれた収益の一部から「教育助成」を行い、さまざまな教育研究活動や授業に役立てられています。主な教育助成内容としては、学校研究活動助成、教育講演会、講習会講師紹介、派遣などです。

【こ～ぷ家庭教育センター】

幼児～中学生までの家庭学習教材販売、学習教室、英会話教室事業を通して、子どもたちの学力向上、家庭学習の習慣づけの支援活動を行っています。



英会話教室体験会の様子

【学校用品ネットショップ】

(株)宮城県学校用品協会の独自ネットショップ『学校用品.net』が6月にオープンし、とびなわ、絵具、リコーダーなどの児童生徒教材をはじめ水泳用品、体育着、書写用品などの学校で使用する用品をパソコンやスマートフォンから購入できるようになりました。

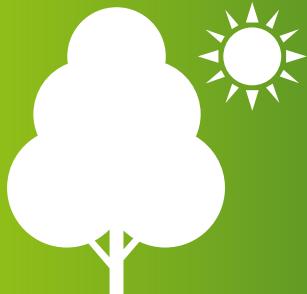


【生協の保険事業】

協同保険センターでは、生命保険(からだの保険)や損害保険(ものの保険)についての学習会と、個人の保障の見直しに関する学習会を各地で開催してきました。「メンバーのつどい」や、学校部「生協係会議」等で33会場460人に情報提供を行いました。参加者からは、もっと早く話を聞ければよかった、保険を考える良いきっかけとなりましたと好評でした。

◆学校用品.netに関する詳細はこちらからご覧になれます。<https://www.gakkouyouhin.net/>

環境活動



1



かけがえのない自然・環境を未来に残していく取り組みを進めています

【環境理念】

みやぎ生協は、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

【環境方針】

みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

1. 「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、メンバーとともに以下の4つの重点課題に取り組みます。

1) 生協事業におけるCO₂の総量削減

省エネ機器、再生可能エネルギー、BDFなどの普及、拡大によるCO₂の総排出量での削減

2) 事業からの廃棄物の削減・再資源化

事業及び家庭ごみの減量のための発生抑制、再利用、再生利用、熱回収などの推進

3) 環境に配慮した地域社会の構築

市民（メンバー・生活者）、市民団体、自治体、行政などと環境に配慮した地域社会構築の推進

4) 商品事業における環境配慮

みやぎ生協の産直品・地産地消商品、環境配慮商品の取り扱い強化

2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協が受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守します。

3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

みやぎ生活協同組合 理事長 宮本 弘



1.太陽光発電所設備(太子堂店) 2.風力発電事業(イメージ) 3.営業用電気自動車 4.木質バイオマス発電事業(イメージ)

低炭素社会の構築に向けて

【生協事業におけるCO₂の総量削減】

みやぎ生協は日本生協連の掲げるCO₂削減長期目標(2020年までに2005年度比15%削減)に向け、事業におけるCO₂排出総量削減に取り組んでいます。

2014年度のCO₂総排出量は37,222tと2005年度排出総量に対し、総量で5,699t(13.3%)削減しました。また昨年度の排出量に対し、788tの削減(2.1%)と着実に削減が進んでいます。



*2011年度は、震災で多くの事業所が稼動できなかったため排出量が減少しています。

【新店2店舗でのエコな店づくり】

エコなお店づくりとして、長町店、太子堂店にそれぞれ太陽光発電(30kW)を設置し自家消費しています。また売場天井、冷ケース、倉庫、作業場すべてにLED照明を導入し、省エネをすすめました。また冷蔵・冷凍機の冷媒用にオゾン層を破壊しない自然冷媒CO₂を使用しています。

再生可能エネルギーの普及拡大

【木質バイオマス発電事業】

岩手県野田村で行う木質バイオマス発電事業に出資参画します。発電規模は出力14MW、年間総発電量は9,648万kWhで一般家庭約2万6,800世帯の年間使用量に相当します。使用燃料は、未利用材、樹皮、剪定枝、パームヤシの種殻など年間約14万tで、運転開始は2016年4月ごろを予定しています。

【風力発電事業】

みやぎ生協、いわて生協、コープあきたの3生協と3つの会社は、「コープ東北グリーンエネルギー株式会社」が行なう風力発電事業に共同で出資参画します。秋田県沿岸に出力2.5MWの風車を3基建設し、年間の総発電量は合計1,650万kWh、約4,500世帯分の年間使用量に相当します。運転開始は2016年の秋ごろを予定しています。

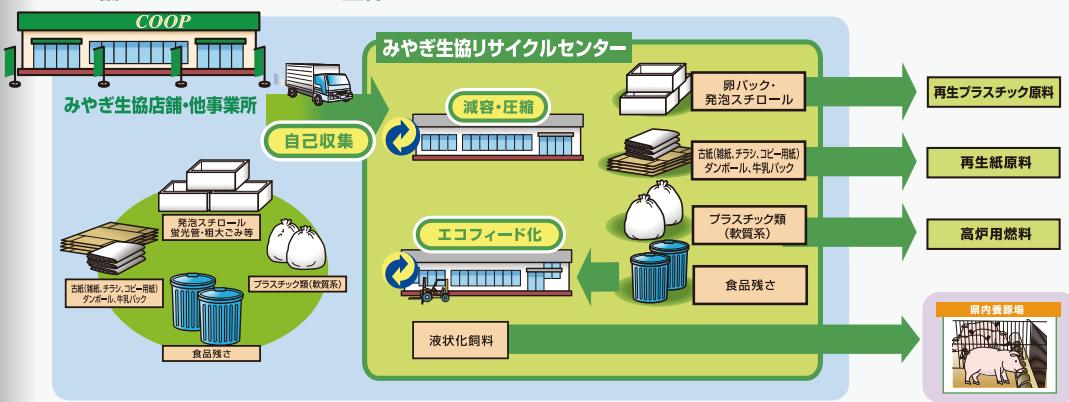
【太陽光発電】

太陽光発電設備を新店2店舗に設置しました。これにより太陽光発電設備の設置は14事業所、発電能力は500kWとなりました。年間の発電量は499,822kWh、削減したCO₂は211t(前年162t)でした。発電した電力は災害対策も考慮し、事業所の自家消費としています。

【電気自動車の導入拡大】

共同購入センターに新たに11台導入し、電気自動車は17台になりました。従来のガソリン燃料のCO₂発生量から、バッテリー充電に要したCO₂を差引いたCO₂削減量は21t(前年10t)です。この車両は車内のコンセントから給電が可能だから、災害発生時の物資提供時にも活用できます。

みやぎ生協リサイクルセンターの全体フロー



1

2



リサイクルセンターの取り組み

【リサイクル方式の変更】

2014年度リサイクルセンターは、食品残さのリサイクル方式をコンポスト方式(食品残さを堆肥化)からエコフィード方式(食品残さを液状飼料化)へ変更する改裝工事を行いました。2014年10月度から野菜果物残さをリキッド(液状)化し、乳酸発酵させた飼料作りを開始しました。今後は店舗から毎日排出される惣菜、寿司、ベーカリー、和洋日配等の食品残さも回収し、飼料の生産量を増やしていきます。この取り組みは店舗の食品廃棄物を削減するとともに、食品リサイクル率を向上させるものです。



エコフィード機械

【BDFボイラーの導入】

野菜果物残さからエコフィード(液状飼料)を生産するための加熱殺菌用小型ボイラーに、軽油ではなく植物由来の廃食用油を精製したBDF(バイオディーゼル燃料)を使用しています。

このコンポスト方式(食品残さを堆肥化)では、電気を使用した熱乾燥機を使用していましたが、リサイクル方式の変更に伴い電気使用がなくなり、リサイクルセンターの電気使用量の約70%削減することができました。



BDF(バイオディーゼル燃料)使用ボイラー

【もったいない大賞「食料産業局長賞」を受賞】

一般社団法人日本有機資源協会主催「第2回食品産業もったいない大賞」で、リサイクルセンターが「食料産業局長賞」を受賞しました。生協では初めて自社の店舗から発生する食品残さを自ら回収してエコフィード(液飼料)化し、生産した飼料で育てられた豚肉を生産するという循環の仕組みを構築しました。また消費者に対する普及啓発を進める上で有効な取り組みである点などが評価されました。



食品産業もったいない大賞表彰式で表彰状を受け取る大越専務(右)

【家庭用使用済み 食用油(廃食油)回収の取り組み】

廃食油の回収店舗を2015年2月から仙台市内で5店舗増やし、合計で13店舗になりました。2014年度の回収量は11,598ℓ、前年比130%と伸びています。回収した廃食油の売却益は、「緑の基金」に積み立て、宮城県の自然を豊かにする活動へ活用します。みやぎ生協では共同購入の配達車両やリサイクルセンターのボイラーと重機などにBDFを使用しています。2014年度のCO₂削減効果は、166.7tでした。



廃食油回収ボックス(南光台店)

◆環境に関する取り組みの詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyagi.coop/member/kankyou/>



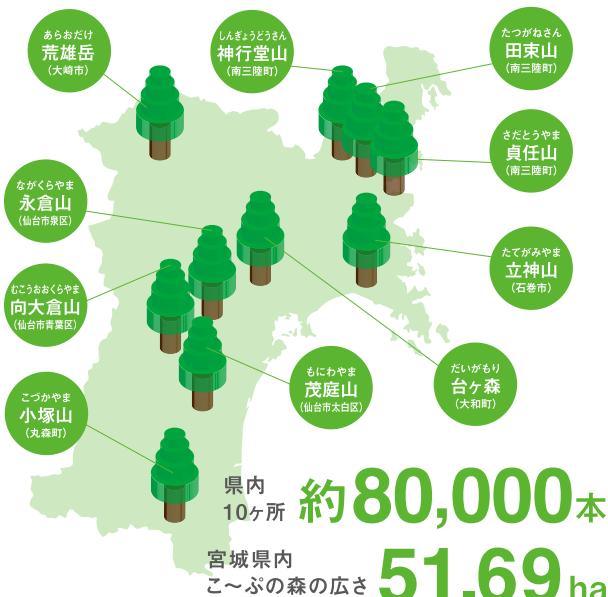
1.リサイクルセンターのフォーラム 2.10番目のこ～ぶの森「台ヶ森」(大和町)での植林 3.夏休み親子企画「森と水辺の観察会」(南三陸)

3

メンバーの環境活動

【“こ～ぶの森”的活動】

「緑の基金」を活用し、宮城県内の自然と緑を豊かにする活動として1992年から始まった“こ～ぶの森”的活動はメンバー、職員、協賛企業様などの協力を得て県内10ヶ所に植林を行ってきました。2014年は10番目の森「こ～ぶの森台ヶ森」にスギ、カラマツ、広葉樹など3,700本を植林しました。5月に行なった植林体験会には55人が参加し、森づくりを通じて交流することができました。次年度につなげる活動として、新しい森に植える苗づくりのために「ドングリ拾い&育て方教室」を開催しました。ほかにも、「こ～ぶの森」をフィールドに、他団体と連携しながら生物多様性を保全する大切さを学ぶ体験会などを行なっています。



【「緑の基金」への募金】

車検事業では、「緑の基金」に1台につき50円、2014年度は合計15万7,150円(3,143台分)を寄付しました。また、リサイクル品を使用することでCO₂削減にも取り組み、2014年4月から翌年2月までの期間で2,890.8kgのCO₂削減に貢献しました。

【家庭の省エネ、暮らしの見直し】

原子力発電に頼らない社会を目指して、事業活動での省エネとともに家庭での省エネ活動に取り組んでいます。8つの省エネ行動「省エネエイト」として夏・冬にチャレンジし、メンバー、職員1,488人の参加がありました。チャレンジに先立ち、エリアでの省エネ学習会を6月の環境月間やつどいなど計40ヶ所で行い、広がりのある活動とすることことができました。



冬の省エネチャレンジシート

【環境月間の取り組み】

環境月間である6月24日に行なわれた再生可能エネルギーの学習会には65人の参加がありました。また、57エリアで、夏の省エネ料理教室や省エネエイト学習会、みやぎ生協のリサイクル啓発など、環境保全に関する取り組みを行いました。

【生物多様性を育む活動をひろげました】

水辺の観察と水質測定は、20年間の測定データをまとめたDVD「みやぎの水辺」を活用して行いました。2014年7月1日～8月25日の期間、69地点でのべ354人が参加しました。夏休み親子企画「南三陸の森と水辺の観察会」には29人が参加し、森と川、海のつながりを実感できる活動となりました。

◆こ～ぶの森の活動についての詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www.miagi.coop/member/kankyou/coop-woods/01.html>

◆みやぎの水辺ものがたりについての詳細はこちらからご覧になれます。

<http://www.miagi-mizube.com/>

商品事業における環境配慮

【環境配慮商品の普及拡大】

みやぎ生協は、持続可能な社会をめざし、低炭素、循環型、自然との共生（生物多様性）の視点で環境に配慮した「エコマーク」「MSC（海洋管理協議会）」「有機JAS」などの認証を取得している商品のほか、「めぐみ野（産直）」品、地産地消商品の普及拡大に取り組んでいます。

【「めぐみ野」米のカーボンフットプリント(CFP)表示を拡大】

環境に配慮したお米として新米供給に合わせ、これまでの「ひとめぼれ」1品種から「ささにしき」「こしひかり」「つや姫」を含めた4品種15商品へと、ほぼ全商品に拡大しました。

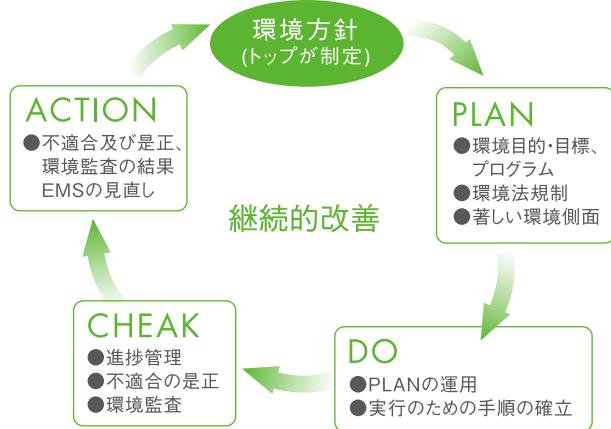
CFP（カーボンフットプリント）
  「めぐみ野」米 ひとめぼれ5kg」での表示例
CFP（カーボンフットプリント）とは 商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO ₂ に換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組み。LCA（ライフサイクルアセスメント）手法を活用し、環境負荷を定量的に算定します。

MEL（マリン・エコ・ラベル）	FSC（森林管理の原則と基準）
 	
有機JAS	特別栽培農産物
 	
MSC（持続可能な漁業のための原則と基準）	エコマーク
 	

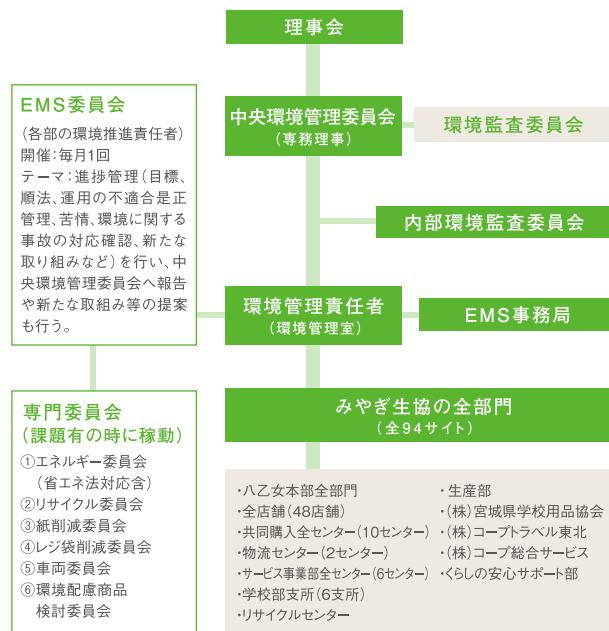


【環境マネジメントシステムの推進（PDCAサイクル）】

みやぎ生協は2013年度にISO14001を卒業しましたが、「環境マネジメントシステム（EMS）」の継続は組織にとって有益として、継続運用を行なっています。



【環境管理体制】



◆環境に関する取り組みの詳細は下記のURLからご覧ください。<http://www.miagi.coop/member/kankyou/>

外部環境監査、内部環境監査

【外部環境監査】

みやぎ生活協同組合

理事長 宮本 弘 様

2015年4月18日

環境監査委員会

委員長 遠藤智栄子	高橋朋子
委員 栗津洋子	高橋春男
	中田俊彦
	福田幸子
	緑上浩子

当委員会は、みやぎ生協環境管理規程第14条、同環境監査規程第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】

第1回 2014年11月15日 2014年度上期環境監査:書類監査、長町店見学

第2回 2015年 4月18日 2014年度環境監査:書類監査および総合監査

【評価事項】

- 新機器設備の導入と更新により、エネルギー使用量が削減されたこと。それに加え、店舗の環境が改善され、快適性が増したこと。
- 低炭素社会の実現に向け、CO₂排出削減の目標値を達成し、引き続き総排出量を削減したこと。
- 低炭素化と生活の快適性を両立できる暮らしに関する環境商品(断熱ガラスなど)を広めはじめたこと。
- めぐみ野品・環境配慮商品の生産者及び供給高を拡大し、一次産業の発展に寄与し地域の復興を後押ししたこと。
- 風力発電事業、木質バイオマス発電事業に参画し、再生エネルギー起源のグリーン電力供給への道筋をつくったこと。
- 東北地区の他の生協と連携し、環境活動を推進していること。
- DVD「みやぎの水辺」の作成やこ～ぶの森の植林体験会などの実施を通して、生物多様性への理解を促進し、環境に配慮した地域社会構築を進めたこと。

【指摘事項】

- 住まいやエネルギー分野の新たなサービス・事業の展開を通じて、環境配慮行動のバージョンアップをめざすこと。
- エネルギー・燃料などの事業参画の意義と展望を検討し、生協ならではの取り組みをめざすこと。
- コンポスト方式から変更したエコフィード方式を本格稼動することにより、食品リサイクル率を向上すること
- 生協活動における個々の環境活動の位置付けを、図や絵を使ってわかりやすく表現し伝えること。

以上

【内部環境監査】

○実施期間：2014年7月11日～2014年8月31日、対象部門全事業所(81サイト)

○監査員：監査11チーム(2人)主任監査員1名、監査員23名(内、コーポあおもり1名含む)

○監査所見：総数42件、重大0件、軽微2件、改善の意見:観察25件、+評価15件

○その他：内部環境監査員セミナーを開催し、新たに4名養成しました。

監査結論	①みやぎ生協の環境マネジメントシステムが適切に運用されている事を確認しました。更に実態に即したマニュアル整備を行なってください。 ②全体の目的・目標4項目「事業におけるCO ₂ の総量削減」「事業からの廃棄物の削減・再資源化」「環境に配慮した地域社会の構築」「商品事業における環境配慮」が達成されており、各部の取り組みが進行しています。 ③順法事項や運用管理は一部改善事項がありましたが、適切に管理されていることを確認しました。
------	---

※みやぎ生協は外部審査機関によるISO14001認証を卒業し、2013年度より自主的に環境マネジメントシステム(EMS)を運用しています。

【環境会計】

- ◆環境保全の投資コスト額:4億7,772万円(前年5億1,737万円)
投資の主なものは、太陽光発電、LED照明、高効率冷凍機などの省エネ設備の導入費
- ◆費用額:4億6,468万円(前年4億7,264万円)
費用の主なものは、再資源化及び廃棄物の処理費や温暖化防止に伴う機器の維持管理費
- ◆環境保全策に伴う経済効果(有益)1億7,953万円(2億9,864万円)
経済効果の主なものは、リサイクルによる再資源化物の売却収入
※()内は前年の数値、一部修正を行っています。
- ※環境関連の寄付・募金 合計1,467万円(前年 1,937万円)

【環境に関する法規制とご意見】

- ◆環境に関する法規制27項目、その他7項目あり適切に管理を行なっていません。
- ◆環境に関するお申し出1件、ご意見は57件でした。

主な項目	件 数
外部からの再資源化物の悪臭に関するお申し出	1件
リサイクル等の事業について	28件
省エネ・省資源等について	8件
商品の容器・包装等について	9件
環境とサービス対応について	3件
その他のご意見・ご質問	9件

生協活動と環境のかかわり

エネルギー資源、水資源		
	GAS	OIL
項目	2014年(2013年)	前年比
電力	7,213(7,338)万kWh	98.3%
ガス	58(59)万m ³	97.5%
水	37(38)万m ³	97.9%
重油	159(201)kℓ	79.3%
灯油	206(204)kℓ	101.2%
ガソリン	221(221)kℓ	100.2%
軽油	734(740)kℓ	99.2%
車両LPG	5(30)kℓ	16.4%
BDF	64(57)kℓ	111.7%

主な資材の消費		
<容器・包装材>		
資材	2014年(2013年)	前年比
レジ袋(紙袋含)	18(21)	83.6%
ロールポリ袋	31(52)	60.0%
包装紙	5(6)	74.7%
簡易包装紙	0.45(0.36)	125.5%
PS(発泡)トレー	78(86)	89.7%
PS(発泡)以外のトレー	160(156)	102.6%
ラップ	38(39)	98.6%
その他のポリ袋	50(79)	63.0%
<紙類>		
紙類	2014年(2013年)	前年比
コピー紙	116(126)	92.1%
コピー紙以外の紙	6,502(6,916)	94.0%

地球温暖化に関わる排出		
事業上排出したCO ₂ :37,222(13年度38,010)t(委託車輌除く)		
<容器・包装材>		
項目	2014年(2013年)	前年比
電気	30,509(31,040)	98.3%
重油	432(545)	79.3%
灯油	515(509)	101.3%
都市ガス	113(112)	100.9%
LPG	3,204(3,298)	97.1%
ガソリン	514(513)	100.2%
軽油	1,927(1,943)	99.2%
車両LPG	8(51)	15.7%
合計	37,222(38,010)	97.9%

環境保全活動によるCO ₂ 削減量		
-化石燃料の代替エネルギー(換算)-		
項目	2014年(2013年)	前年比
BDF(t)	167(149)	111.7%
太陽光(t)	211(162)	130.5%
電気自動車(t)	20.9(10.0)	209.0%



みやぎ生協

◆事業所

店舗 48店舗

共同購入 宅配10センター
家電センター
物流セットセンター

サービス保障事業 サービスグループ
住まいのサービス
ブリエ案内センター
共済センター
協同保険センター

生産部 魚センターライン
肉センターライン
豆腐ライン
揚げライン

(株)宮城県 5支所
学校用品協会 こーぶ家庭教育センター

(株)コープトラベル東北

(株)コープ総合サービス・宅配水センター

◆車両使用台数

- ・ディーゼル車 430(425)台
- ・BDF車 25(27)台
- ・ガソリン車 232(237)台
- ・LPG車 1(5)台
- ・電気自動車(EV車) 17(6)台

※()内は2013年度の数値



■廃棄物

廃棄物の排出量(再資源化以外): 4,143t(13年度4,179t)
※再資源化により削減できた廃棄物量 ⇒ 15,469t(15,673t)

■生産部

BOD排出量(20ppm以内): 0.161t(13年度0.384t)

※引き取り廃家電

廃家電品排出量
151台
(13年度297台)

合計 3,102t の削減効果

-レジ袋有料化(換算)-

項目	2014年(2013年)	前年比
CO ₂ 削減量(t)	701(700)	100.2%
レジ袋削減量(万枚)	2,921(2,915)	100.2%

-古紙リサイクルポイントシステム(換算)-

項目	2014年(2013年)	前年比
CO ₂ 削減量(t)	2,002(1,946)	102.9%

**再資源化
(メンバー)**

メンバーの協力による再資源化【店頭等の分別回収した再資源化量:15.779t】					
回収品目	2014年(2013年)	前年比	リサイクル率	再資源化	(単位:t)
ペットボトル	205 (198)	103.8%	82.1%	再生原料	
紙パック	187 (198)	94.7%	122.1%	トイレットペーパー 古紙	
トレー	159 (154)	103.2%	65.4%	再生トレー	
アルミ缶	87 (88)	99.1%	35.0%	再生原料	
共同購入チラシ	4,557 (4,566)	99.8%	72.8%	古紙の原料	
卵パック	38 (39)	97.2%	49.5%	ペット原料	
クリーニングハンガー					
筒型乾電池類					
ペットボトルキャップ					
食用廃油					
古紙RPS					
仙台市古紙回収庫					

※行政の依頼で1店舗に設置

**再資源化
(事業)**

事業から発生する排出物の分別、再資源化 ※事業系再資源化率=再資源化重量÷(再資源化重量+廃棄物重量)					
回収品目	2014年(2013年)	前年比	再資源化	(単位:t)	
紙	356 (361)	98.6%	古紙に再生		
古紙回収	10,482 (10,189)	102.9%	古紙に再生		
共同購入チラシ	4,557 (4,566)	99.8%	古紙に再生		
ビン・スチール・アルミ	116 (121)	95.9%	再資源化		
発泡スチロール	239 (245)	97.4%	再生プラスチック		
ダンボール	7,614 (7,826)	97.3%	古紙に再生		
食用廃油	285 (310)	92.0%	BDF		
おから					
魚腸骨					
牛脂					
揚げロス					
野菜果物くず					
廃プラスチック					
粗大ゴミ					
計(古紙含む)	25,951 (25,862)		99.2%		
計(古紙除く)	15,469 (15,673)		98.7%		

○食品リサイクル率

食品リサイクル量 $2,154\text{t} \div (\text{食品リサイクル量 } 2,154\text{t} + \text{生ごみ量 } 829.1\text{t}) = 72.2\% \text{ (13年度 } 72.1\%)$

環境関連への寄付・募金

- ・緑の基金:800万円(アルミ缶、お取引先様等)・ユニセフ:239万円(牛乳パック、ペットボトルキャップ)
- ・MELON:312万円(MELON商品券)・環境保全活動:116万円(有料レジ袋)

計**1,467**万円



みやぎ生活協同組合

CSR Report 2014年度 社会・事業・環境活動についての報告書

発行日:2015年5月16日

発 行:みやぎ生活協同組合

〒981-3194 宮城県仙台市泉区ハ乙女4-2-2

お問い合わせ先

○総務部広報課 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821

○環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス みやぎ生活協同組合 <http://www.miyan.coop/>
本報告書はホームページに掲載、ダウンロードできます。

